

(令和2年度在宅医療関連講師人材養成事業 訪問看護分野)

「令和元年度訪問看護講師人材養成研修会」受講者

研修会受講後活動に関する調査

～看護師～

【結果】

2021年4月9日

一般社団法人全国訪問看護事業協会

調査概要

目的

「令和元年度訪問看護講師人材養成研修会」を修了した受講者がどのような活動をしているかを把握するために調査を行った。

調査対象

令和元年度訪問看護講師人材養成研修会の受講者（訪問看護師）91名

調査方法

調査票を用いたメール（メール配布、メール回収）による自記式調査

調査時期

令和2年11月10日から12月4日まで

回収状況

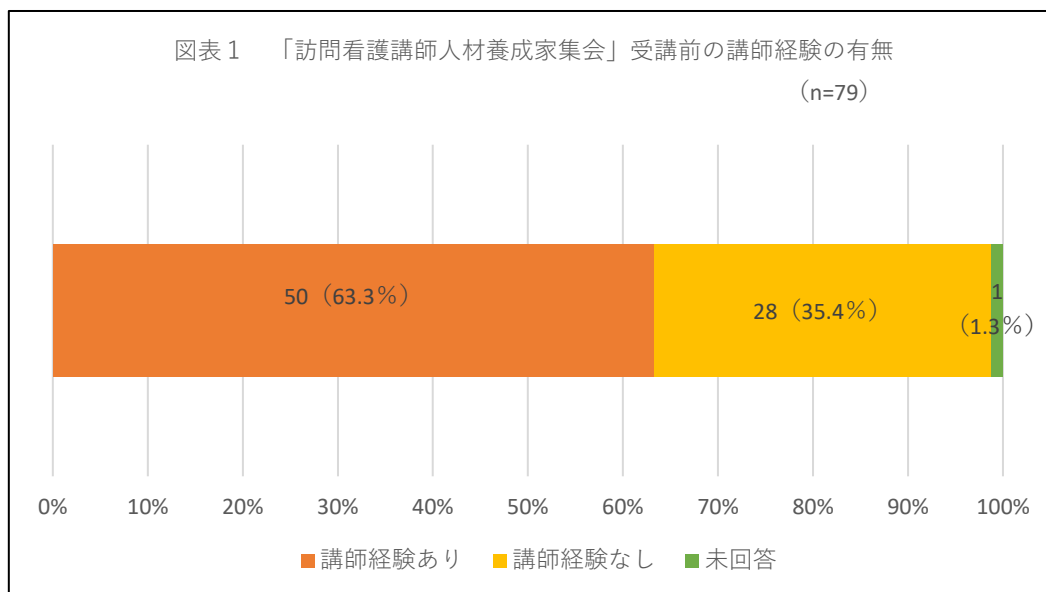
回答者 79名 / 受講者数 91名（回収率 86.8%）

I. 基本情報について

1. 「訪問看護講師人材養成研修会」受講前の講師経験の有無

「訪問看護講師人材養成研修会」の受講前の講師の有無について

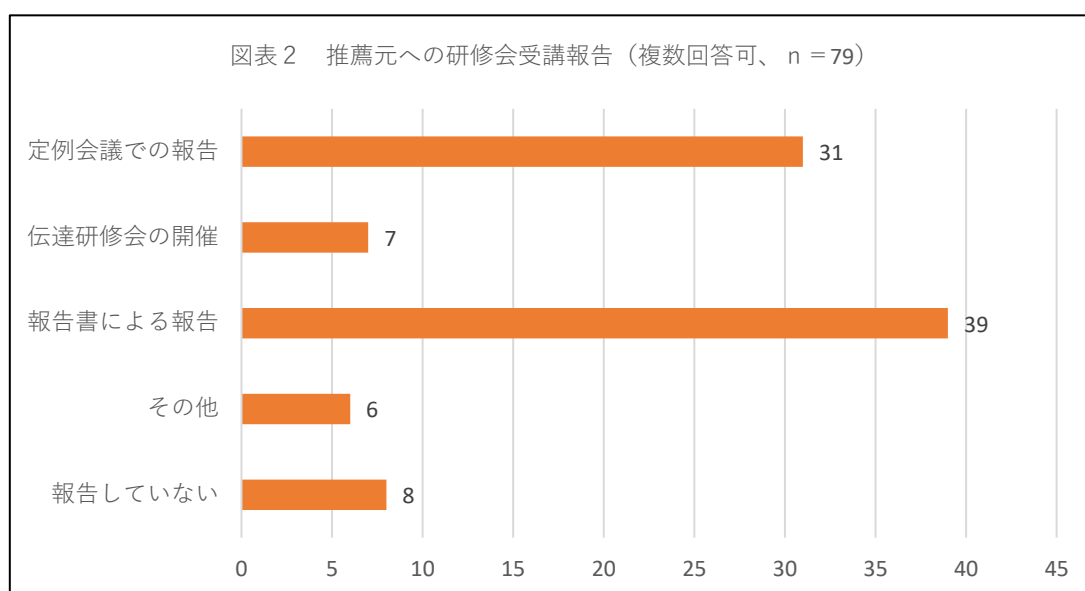
「経験あり」としたものは50人(63.3%)、「経験なし」が28人(35.4%)であった。



2. 推薦元への研修会受講報告

推薦元（都道府県、訪問看護ステーション連絡協議会、看護協会等）への研修会受講報告の方法について

「報告書による報告」が最も多く39人(49.4%)、次いで「定例会議等で報告」が31人(39.2%)、「伝達研修会の開催」が7人(8.9%)であった。「報告していない」は8人(10.1%)だった。



報告していない理由としては

- ・報告の義務がなかった
- ・報告会をする予定だったがコロナで中止になった
- ・報告義務の認識が不足していた

Ⅱ.「訪問看護講師人材養成研修会」受講後の地域での活躍について

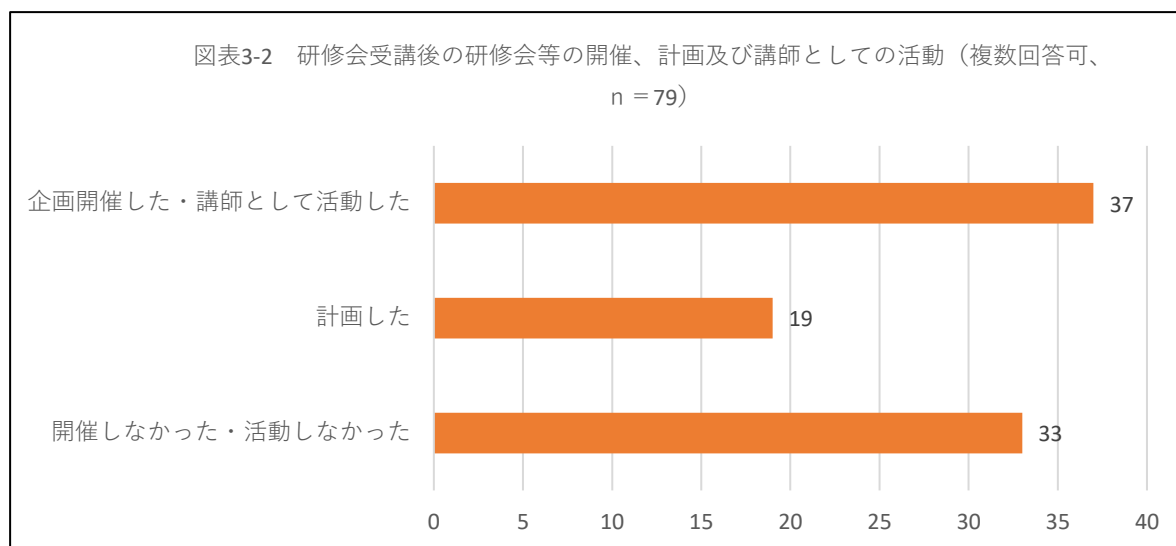
1. 訪問看護人材の確保や訪問看護の推進・普及に関する研修会等の開催について

1) 研修受講後の研修会等の開催、計画、及び講師等としての活動

研修受講後、訪問看護人材確保や訪問看護の推進・普及に関する研修会等について「企画開催した・講師として活動した」が37人(46.8%)、「計画した」が19人(24.1%)であった。一方「開催しなかった・活動しなかった」と回答したものは33人(41.8%)であった。

図表 3-1

企画開催した・講師として活動した	37	46.8%
計画した	19	24.1%
開催しなかった・活動しなかった	33	41.8%

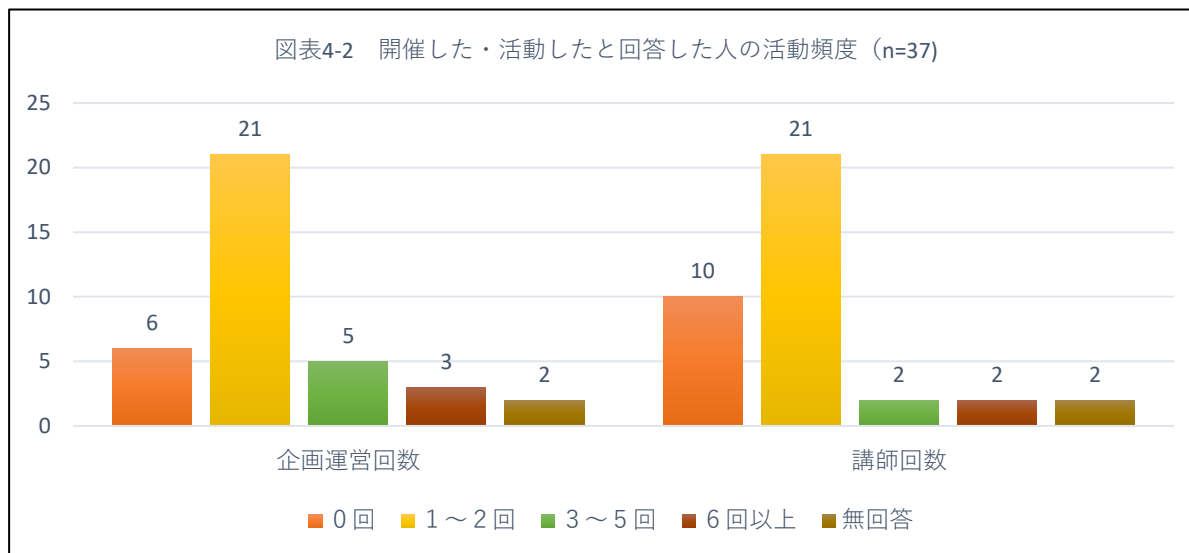


2) 「開催した・活動した」と回答した 37 名の活動状況

企画運営、講師ともに「1～2回」が最も多く21人(56.8%)、次いで「3～5回」企画運営が5人(13.5%)、講師が2人(5.4%)、「6回以上」は企画運営が3人(8.1%)、講師2人(5.4%)だった。

図表 4-1

	企画運営回数		講師回数	
	回数	割合	回数	割合
0回	6	16.2%	10	27.0%
1～2回	21	56.8%	21	56.8%
3～5回	5	13.5%	2	5.4%
6回以上	3	8.1%	2	5.4%
無回答	2	5.4%	2	5.4%



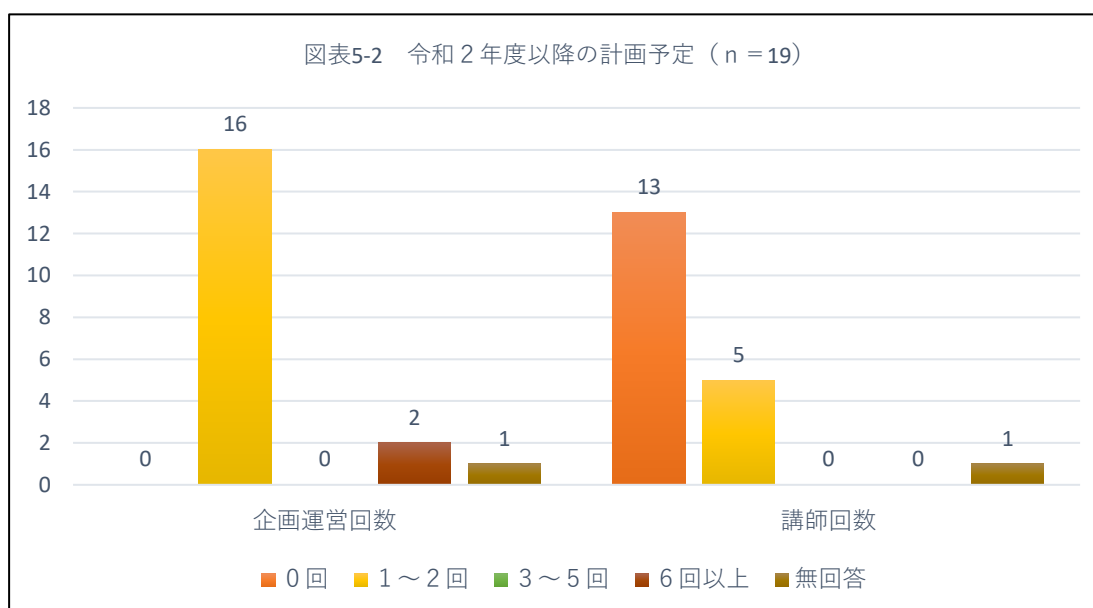
令和2年度以降の計画をした方19名の活動状況

企画運営は「1～2回」16人(84.2%)が最も多く、次いで「6回以上」2名(10.5%)、「0回」「3～5回」は0人だった。

講師は「0回」が最も多く13人(68.4%)、次いで「1～2回」5人(26.3%)、「3～5回」「6回以上」は0人だった。

図表 5-1

	企画運営回数		講師回数	
0回	0	0.0%	13	68.4%
1～2回	16	84.2%	5	26.3%
3～5回	0	0.0%	0	0.0%
6回以上	2	10.5%	0	0.0%
無回答	1	5.3%	1	5.3%



3) 企画・開催等をしなかった方の理由（自由記載、一部抜粋）（n = 33） P3 図表 3-1 参照

【新型コロナウイルスの感染拡大の影響】
コロナの影響で、研修自体の開催が難しい状況にあった。
コロナウイルスの影響のため検討する機会などがなかった。
訪問看護連絡協議会での定例会議、情報交換がコロナ禍で開催できなかった
今年度はコロナ感染流行で研修等が中止となったため
訪問看護支援センターの研修へのファシリテーターの依頼があったが、コロナの影響で中止となった。
【地域での協力者がいなかった】
地域での企画・運営に対して消極的であった。もっと積極的に協力者を募ったり行動していけば良かったと反省している。
企画運営にあたる支援者や協力相手がいない
【連携不足・連携が困難】
訪問看護サポートセンター等との連携不足
一緒に受講した方とは地域が遠く離れており地域の現状も異なるため、連携を図りながら活動するのは困難であった。
県内の他事業所との交流等も難しい状況にあったため
【人手がない・時間がない】
スタッフ不足になり企画が立てられない状態。
通常の訪問看護管理業務に追われ、研修の企画などを相談する余裕がなかった
【その他】
自分の中で講師としての自信がまだ持てない（企画や運営などで経験を積んでいきたいと思っている）
地域および看護協会、協議会からの依頼がない
県や協議会がこの研修に対し積極的でないため。
協議会の研修は協議会理事の意向で決定するため
県訪問看護ステーション協議会の理事の立場で、協議会の研修内容を提案した
実習の受け入れ等は積極的に行ったが研修会企画までには至らなかった。実務を優先してしまった。今後連携しているグループホームでの介護職対象の研修会を企画したいと考えている。
機会がなかった。

4) 継続的に地域で研修会等を企画・開催していくうえでの課題（自由記載）

コロナ禍での影響や課題
コロナの影響で県全体での研修会開催が困難な状況
集団での研修が困難な場合の研修方法
コロナ禍にあり、今までと違った対応が求められる
現在は新型コロナウイルスの感染拡大で集合研修が中々企画実施できない
今年度はコロナ禍の中で Web 等によるインターネット研修を開催したが、今後はそれらを視野に入れて検討する必要がある
感染予防の観点から安全に研修できる環境の整備
オンラインでの環境が整わないと難しい状況
リモート研修の準備
どんな研修会が必要なのかを知るためにも、地域での問題について話し合う機会が必要と感じているが、コロナ禍では声を掛けても自粛ムードが強い。
COVID 19 の影響で、普段の会場での研修会ができなくなり、ZOOM など、通信機器を利用した研修会の開催となり、ICT などのツールを準備する予算を確保できていない。
今は感染対策を優先に考えるため、集合研修の企画が立てにくい。
Web での受講がだいぶ浸透しているが、まだ環境が整っていない状況がある。
Web 研修企画の際、ファシリテーターが慣れていないため、グループワークがなかなか効果的にできない。また、グループ発表やまとめかたを学ぶ必要がある。
今年度はコロナの影響で研修の機会が減った。
WEB 研修への変更に繋がらなかった。
基盤となる訪問看護ステーション連絡会の活動がコロナ禍において停滞している。
今年度はコロナの影響もあり、今後配信など環境整備を行う必要性を感じた
集合研修から ZOOM での研修へと方法も変化してきている。訪問看護の質の向上の為に多くの人が参加できる研修のあり方を考える必要がある
今年はコロナということもあって研修自体の開催が難しかった
県訪問看護ステーション協議会で地域別に訪問看護の推進・普及に関する研修会を企画・運営をしていたが令和 2 年度はコロナの関係で中止
三密環境の中、研修会等の集合の場を企画することが困難。リモート研修をするには 多面にわたり難航、負担が大きい。
集合研修と Web 研修の併用や、Web 研修（Web 申し込み）に参加者が慣れていないことにより、準備段階から運営まで今までになかった作業が増えており、さらに時間がない。経費も不十分である。
リモート研修開催のため、主催側、受講者側双方の環境整備が必要
取り組む時間がない
必要な時間の確保が困難
運営や準備等、業務時間外にしなければならず時間がない
研修準備に時間がかけられない
日常の業務とのバランスが課題

スタッフが増えないと、訪問看護活動以外の事業に参加できない。
通常の訪問看護業務に追われ、じっくり学ぶ時間がとりにくい。
訪問看護ステーションの管理者もスタッフも多忙で、研修企画や参加の時間が作れない。
日々の訪問看護活動で一杯、地域へ発信できるだけの体力がない。
訪問時間を削って地域活動をしているので、継続していく時間・お金共に不足している
個々のステーションの管理者は、日々の実務に追われ企画はもとより運営にも参加できない状況である。
業務をしながらの、研修会等の準備に時間と労力がかかる
少ない人数で企画・運営するため、企画を検討したり、内容を改良したりする時間の確保が難しい
研修会等に必要な経費が確保できない
必要な時間や場所など経費の確保が難しい
企画運営に対する予算がない
企画運営に必要な経費
企画、運営に必要な経費の確保が難しい
実行できるための経費を確保する事
企画・運営に必要な時間や経費の確保の目途が立っていない
企画・運営に必要な経費の確保
企画・運営経費が確保できない。
難しいのはどこが主催でどこで財源を確保するかが課題
教育ステーションでなければ、経費を出してくれるところもしくは、研修生が自ら研修費用を支払って研修会を企画する必要がある
事業計画を立て講師依頼するときに予算が合わない。予算に合わせると、講師の選択が狭くなる。
開催にあたり人手が足りない
地域に協力者がいない
マンパワーの不足により継続して企画・運営していくことが難しい
地域における相談者や協力者がいない
地域内の協力者を増やしていくことが必要
地域に協力者が少ない
同地域と一緒に活動してくれる協力者がいない。
開催者側の人員の増員
自分で研修を企画するときにはやはり職場や地域全体の訪問看護師の協力が必要
地域の訪問看護に携わる看護師たちと、ZOOM等の研修が可能になる環境を作ること
受講終了者の連携・交流
研修を継続していくため、受講経験者が協力し各圏域で同レベルの研修が行えるように分担していくことが必要。受講終了者の協力体制の継続
個人で研修会等を企画・開催することは困難なため、過去の受講者を県等でとりまとめ、連携・交流できるシステムが必要

これまでの研修受講者と協力していく必要がある
地域課題を共通認識できる人とのつながりを持ち、定期的に話す機会を持つ事
共に行う協力者のネットワークが構築されていない
協力・支援の体制づくり
一緒に考える仲間も必要
所属先法人・事業所等の理解が得られない
法人等への活動周知の通知
所属している事業所の理解が得られにくい
企画は行政がし、行政から依頼を受ける方が、所属の理解が得られる
所属法人の理解が得難い。
会場等の手配ができない
研修を開催できる場所
感染対策を十分に行い、広い会場を探す必要がある。
多数参加可能な時間と場所の確保
その他
研修後の評価についての困難さやフォローアップについて継続的に行っていくことが課題
行政の方等他職種の方々と協働
行政・看護協会・連絡協議会等との協力
県・看護協会・県訪問看護ステーション連絡協議会とうまく連携すること
県市町村との連携体制が確立されていない。
市役所の職員など、地域の多職種への働きかけの機会をつくるのが難しく、課題
看護協会の訪問看護支援センターや連絡協議会を活用し企画することが望ましい
地域包括ケアシステムの構築の推進を図る会議や福祉との連携会議（例えば医療と介護の連携推進事業、自立支援会議、地域包括事業所の関係会議等）との連携、同じ課題を抱える職種との連携や協力が必要と考える。
連絡協議会等の団体で計画的に取り組み、講師人材を育成する必要がある
地域を支える多職種との協働の必要がある
効果的に実施できるよう、関係機関（訪問看護事業協会ほか）との連携、人材確保や人材養成について協議する場が必要と感じている。
県内を5ブロックに分けて活動しているが、情報を共有するにはどうしたらいいのかが課題
企画をする上で公募しても人数が少ないし、どのように集客するかが課題
研修参加者の確保
新たな参加者が増えない。
土曜日に研修会を企画するが多いが、業務等の関係もあり参加者が少ない
レベルアップが必要なステーションほど、研修参加が少ない。
研修の開催日時の検討が必要
地域の課題に焦点をあてた計画が立案できるか難しさを感じる
地域ニーズの把握ができていないため、必要とされる研修会の企画にイメージがわからない

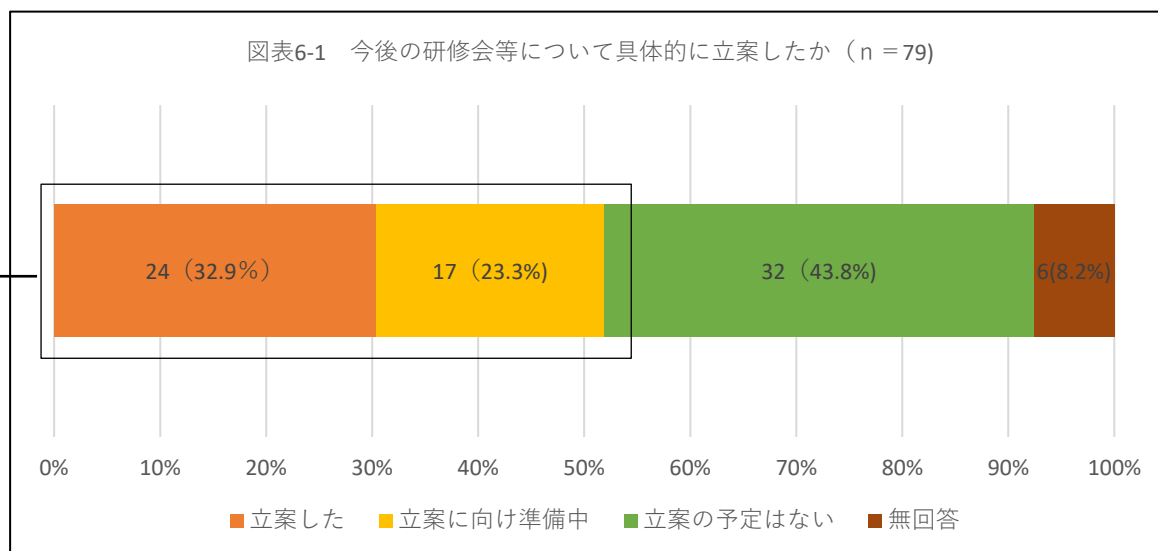
管理者の中でも初任、中級、上級と経験が違い学びたい内容が違う。どこにフォーカスするか考えたらラダーになる。
訪問看護の認知度は低いと感じている。情報を取れない高齢者にも啓蒙できるような取り組みをしたい。
「OJT シートの活用を全訪問看護ステーションで行う」ことを目標に教育委員会で企画、運営を行ったが、ステーションの規模や地域差で全ステーションに浸透は困難だった。自事業所の目標管理やラダーと重複する所もあり、重複する場合どのように自部署に取り入れていくかが課題
魅力的なテーマの選定

5)研修会等の実施計画予定について（講師として活動される場合も含む）

(1) 研修会等の実施計画の立案

今後の研修会等について、具体的に実施計画を立案しているかについて

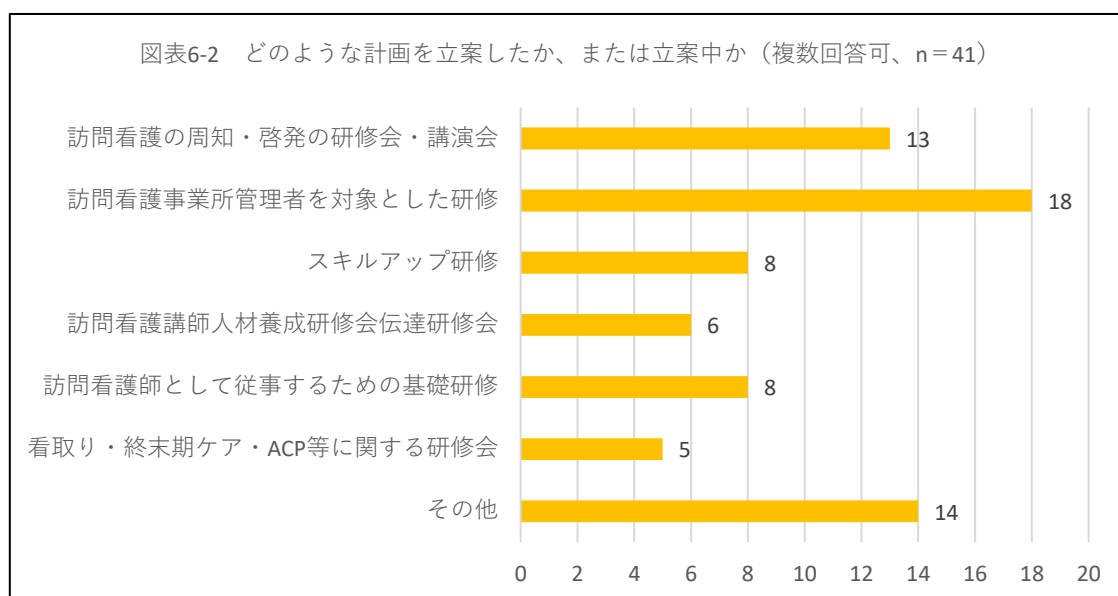
「立案した」と回答したものは24人(32.9%)、「立案に向け準備中である」が17人(23.3%)、「立案予定はない」が32人(43.8%)、無回答が6人(8.2%)であった。



(2) 研修会等の立案、立案中の計画内容

立案または立案中の研修会計画内容について

「訪問看護事業所管理者を対象とした研修会等」18人(25.0%)、「訪問看護の周知・啓発の研修等」13人(18.1%)、「スキルアップ研修」8人(11.1%)、「訪問看護師として従事するための基礎研修会等」8人(11.1%)、「訪問看護講師人材養成研修会伝達研修会等」6人(8.3%)「看取り・終末期ケア・ACP（人生会議）等に関する研修会等」5人(6.9%)の順であった。



「その他」については14人(19.4%)の回答があり、内容は以下の通りであった。

- ・災害、感染症対策連携
- ・特定行為
- ・小児在宅多職種研修

(3) 具体的な内容

JNA ラダーを使用した人材研修
・訪問看護ステーション同士の災害・感染症対策連携を考える。 ・地域での取り組みの経過と課題 ・社会資源の状況や他団体の動きについての研修を行い今後の圏域ごとのグループワークで現状の課題、対策を具体的に抽出しステーション間の連携体制整備を行う
YouTube での配信（在宅医療に関するもの）
新任 1～3 年の職員相談会・交流会
訪問看護講師人材養成研修会伝達研修会 ・看護師が行う特定医療行為の課題について ・人材育成に関する内容（令和 3 年 7～8 月頃に開催予定）
訪問看護講師人材養成研修会の 2 つのテーマを選出し訪問看護師を対象とした伝達講習、グループワーク
ステーション連絡協議会からの委託事業の中で、新人研修を企画していた。看護学生対象に授業の中で看取りや ACP、訪問看護師の役割を講義内容に盛り込んで実施した
今年度 KJ 法による管理者研修を行い、発表することで管理者としての問題解決の効果が見られたので、来年度も KJ 法を用いての訪問看護管理者交流会を行う計画
令和 3 年度訪問看護入門セミナーの講師、実習受け入れ
新型コロナウイルスの感染症対策について
本研修受講前には褥瘡ケアに関する研修や、グリーフケアとしての患者会の開催などを企画、開催してきた。地域での課題を洗い出し、焦点を絞った研修を企画したいと考えているが、今後の感染症流行の動向を見極めながら、具体化していきたいと考えている状況である。具体的なものは決まっていない
1. CN,CNS や他職の専門家を招いての ZOOM による研修の開催 2. ZOOM による EOL 研修 3. ZOOM による地域の管理者との連携会議（サロン） 4. オンデマンドによる喀痰吸引等研修、および指導看護師養成研修の開催
まだ検討途中であるが、BCP 作成、訪問看護における災害訓練の実施など、災害全般についての研修
埼玉県訪問看護ステーション協会秩父支部においての初めての研修会。H3 年 3 月、皮膚排泄の認定看護師による研修で、事前に困難事例等質問を受けて、研修内容を検討予定。
①小児訪問看護を受け入れる事業所を増やすため、アンケート結果から要望の多かった小児の社会資源について講義をしていただく。 ②訪問看護ステーション協会主催の管理者研修において昨年度の人材養成研修会伝達研修を行った。
小児在宅に関わる多職種が集まり、講師による勉強会、意見交換、情報共有の場を作っている
山口県の委託事業（在宅療養支援に係る看護職の連携推進・強化事業）として医療圏別に研修を企画・開催（三か年計画）
【柳井圏での課題】 ・多職種の役割（地域包括）・訪問看護・社会福祉協議会等）を知らない

・在宅療養の実際を知らない 【目標】 ・在宅療養支援に係る課題を理解し、課題解決の方向性を見つけ出せる。 【今年度の計画（二年目）】 ・在宅での事例紹介 ・訪問看護や地域包括、社会福祉協議会などの役割を知る
就職を検討している潜在ナースへの研修
対象者：訪問看護ステーションの新人管理者または今後管理者になる予定者 内容：管理者に必要な知識・技術の習得
訪問看護を他の人に伝えることができるためのロールプレイ 詳細はこれから決める予定
自信を持って訪問看護ステーションに従事し続けることができるようスキルアップ、制度の理解、職員との連携などの方法を研修する
「訪問看護講師人材養成研修会」に参加した際、看護の質を上げることで在宅看護の魅力が増し、訪問看護の人材確保ができるのではないかと考えた。在宅看取り数は増えているが、在宅看取りの割合は伸びていないという当県の課題がある。看護の質を向上させ在宅看取りを推進していくことを目標に、県訪問看護ステーション協議会でACPシート作成し、現在検討中である。今後研修企画として、ACPや実際の活用について、エリアごとの連絡会で研修・事例検討などを行っていききたい。
1. 地域の自治会に働きかけて訪問看護についてのWEB研修を行う予定。（訪問看護とは、閉じこもり予防、自宅でのリハビリ等） 2. 訪問看護ステーション管理者研修(地域のこども病院相談員との交流等)
病院から退院し訪問看護が開始となった事例をもとに、在宅で死活を支える視点の共有をはかる事を目的とする。また看看連携がスムーズに出来るようになることを目的として管理職の方の参加も依頼。 病院側は院内で、訪問看護側はzoomで参加しグループワークをし、その後実際の在宅で生活している場面をビデオで見ってもらう。最後に訪問看護の認定看護師の講師の先生から訪問看護についての講義をしてもらう。
市民や訪問看護に興味のある看護師や看護学生に、訪問看護の周知・啓発、訪問看護で働いてもらえるような講演会の開催を考えている。
1、訪問看護周知啓発は、大阪府の看護協会のナースセンター事業の中のセカンドステージに備える研修で実施した。40代50代が対象。 2、管理者対象研修は大阪府訪問看護ステーション協会の管理者初任者基礎として訪問看護の概論の研修講師を行った。
・地域に向けては「訪問看護について」の啓蒙活動 ・ステーション職員、関連施設看護師に対しての「訪問看護師」研修を考えています。
今年度の研修の評価と来年度の計画への意見交換
・高校生へのキャリア教育講師 ・月1回のサロン活動の継続 ・スタッフへの教育プログラム作成 ・スタッフの研修受講

・地域で働く医療職者（多職種）との研修会（コロナで中止）
① 継続的なビギナーズ研修(6回) ② 管理者向け災害研修(2回) ③ 多職種によるコロナ発生時の対応研修(1回)
管理者研修 年3回企画 ・人材育成に関して ・メンタルヘルスケアに関して ・訪問看護の制度や現状に関して ・リスクマネジメント ・小児、精神の制度 ・多職種連携（医療圏域ごと）
・訪問看護師養成講習会 ・精神科訪問看護研修 ・訪問看護管理者研修
管理者研修、リスク研修の企画 未就職者への経管栄養講義 訪問看護養成研修での講義
認知症認定看護師のせん妄研修
OJTシート活用について ① R1年OJTシートについての研修を企画する。 内容は、OJTシートの説明、グループワーク。 ② OJTシートの新人編を全ステーションのスタッフ1人1人が記入する ③ R2年管理者研修を行い、OJTを実際に活用しているステーションの報告を行い、グループワークする ④ 各ステーションでOJTシート活用に取り組み、活動報告をR3年2月までに提出する
ハラスメントに関する研修（暴力・セクシャル） 在宅療養とペット
1、法人併設の准看護師養成学校の学生を対象。 ①老年期看護の講師として参画。 その講義の中に介護保険、地域包括ケアシステムや看護師の仕事についても説明を織り込んで、在宅看護や訪問看護師の理解を深めていく。 ②訪問看護研修の場として学生の受け入れ。 2、訪問看護の質を高める場として 地区の「訪問看護ステーションネットワーク」を構築し、情報共有、看護の質の向上、地域における安心・安定した看護の提供を目指す。 さらに、その環境をモデルとして次世代に繋いでいく。
地域の方の作り方やACP、看看連携について講師の講義のあと、グループに分かれて、連携で上手くいった事や課題をディスカッションした
・地域の訪問看護ステーション全職員を対象とした事例検討会の実施 ・感染管理認定看護師による講演会

(4) 計画の進捗状況

愛知県訪問看護ステーション協議会での研修委員のため、毎年行っていく予定
各圏域で実施中
講師は特定医療行為の研修を修了し活動している訪問看護師。場所は未定、予算はステーション協議会の研修費を来年度に予算要求する。対象者は県内の訪問看護師で2回に分け開催予定
日程、会場等確保していたが、コロナ感染関連のため研修会は見送りとなった
来年度の新人研修に向けて、Webでの開催含めた開催方法を計画している
・ 県央・県西の2ヶ所の会場・日時決め ・ 案内文の工夫で参加者を募る（チラシも用いて参加意欲をもってもらおう） ・ KJ法で行うが時間が少なかったとの反省もあり、グループワークの時間を増やす ・ 個人面談の時間もあるが、前もって課題を申込みの際に書いてもらい、助言ができるか？等の意見があった。
※来年度具体的な会議（日時は決定）を開催1ヶ月前に行う予定
令和3年度の研修計画に立案、内容は今後検討
現在、詰めているところ
進捗したものは特になし。情報収集している段階
1については、2020年8月より開催しており、現在は2021年10月までの講師が決定している
2については、2021年3月開催予定である
3については、12月より2週間に1度のペースで1週当たり連続3回程度開催している、今後もその予定である
4については、10月よりすべての喀痰吸引等研修をオンライン又はオンデマンドで実施しており、指導看護師研修も11月～12月で開催し、終了した
会場や講師は決定し、予算はステーション協会支部の活動費を使用予定。
①講師、場所の設定終了。日程確認も済んでいる。12/22に部会での打ち合わせをし、当日の動きを確認する予定。
②11/20に伝達研修を行った。
コロナで中断中
・ 訪問看護の役割について、事例紹介を交えながら説明（講師）する。コロナ対策としてはDVDや、ZOOMの録画機能などを使って、集まらなくても可能な方法で検討中。 ・ 医療機関（病院）のリーダーや主任・師長クラスが、在宅の研修に参加できるよう調整する。
→感染対策の徹底をした上で参加できるよう、病院や事業所に理解と協力を求め可能な範囲で実践する予定。
・ 次回の会議は2月予定
計画書の立案
今年度開催できなかったため、来年度に開催。
日時や会場、オンラインでも行うか否か等すべてこれから詰めていく予定。
現在は企画書段階

ACP シートのたたき台を県内各ステーションで試行し、問題点をエリアごとに出し合い、再検討中である。
1. 会場、講師派遣調整中 2. 会場、こども病院への依頼調整中
企画計画書作成、講師選定、会場選択、日程決定、研修案内作成募集まで終わっている。
大学の看護学科で非常勤講師として講義をしているため、その機会を生かし、訪問看護師になりたいと思ってもらえるよう引き続き啓発をする。市民や看護師への講演については、未計画である。
地域活動再開してから
これまでに2回、コロナ感染の状況の中での運営と改善点の検討、研修に対する評価を行った。2月に来年度の計画の評価を行う予定
鳥取大学医学部付属病院 在宅医療推進のための看護師育成支援事業 講師予定
新人と管理者を中心とした研修会の実施終了
補助金獲得で計画書作成、会場確保、講師交渉
事業計画書提出済み
予定通り進んでいる
認定看護師に計画案内を出し講師の受諾をもらう
OJTシート活用について ① R1年OJTシートについての研修を企画する。 内容は、OJTシートの説明、グループワーク。 ② OJTシートの新人編を全ステーションのスタッフ1人1人が記入する ③ R2年管理者研修を行い、OJTを実際に活用しているステーションの報告を行い、グループワークする ④ 各ステーションでOJTシート活用に取り組み、活動報告をR3年2月までに提出する
1、学校のカリキュラム計画に沿って実施。 ①講義はR3年後期～（1年生対象）。 ②実習受け入れは R3年5月～（2年生対象） 2、ネットワークの構築は地域有志の賛同を得た。 医師会役員医師の協力が必須であるため 協力医師との日程調整中（R2年12月中旬期限予定）。
北海道訪問看護ステーション連絡協議会の中で提案、意見発信した。
・令和3年11月に会場を予約した

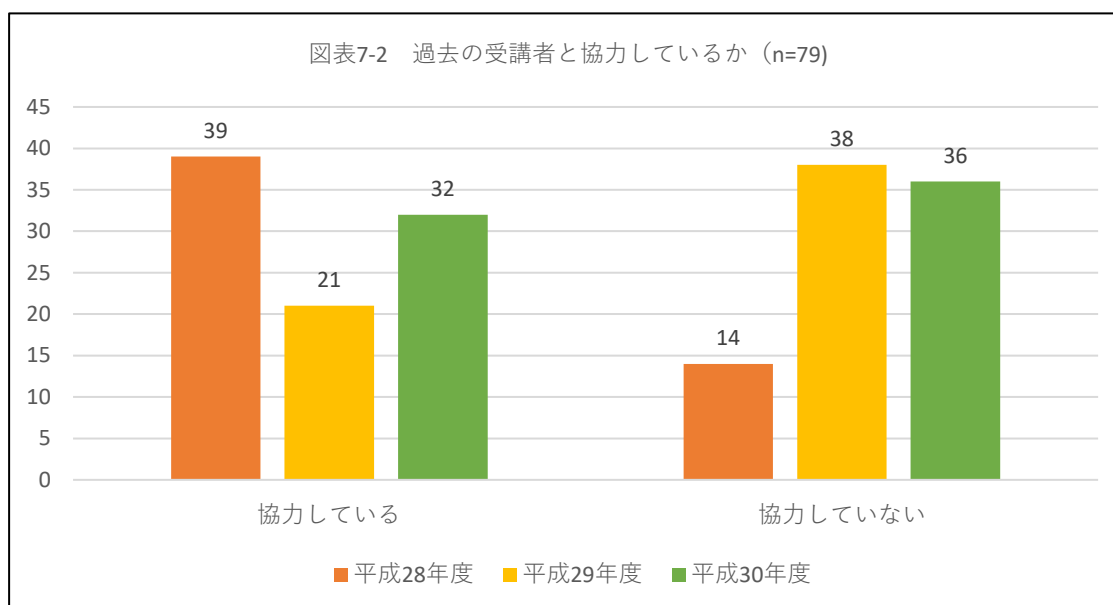
6) 平成 28 年度から平成 30 年度までの受講者との協力状況

平成 28 年度から平成 30 年度までの本研修会を受講者との協力状況について

「協力している」と回答したものは平成 28 年度 39 人(49.4%)、平成 29 年度 21 人 (26.6%)、平成 30 年度 32 人 (40.5%)、「協力していない」と回答したものが平成 28 年度 14 人(17.7%)、平成 29 年度 38 人 (48.1%)、平成 30 年度 36 人 (45.6%) であった。

図表 7-1

	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度	
協力している	39	49.4%	21	26.6%	32	40.5%
協力していない	14	17.7%	38	48.1%	36	45.6%
未回答	26	32.9%	20	25.3%	11	13.9%



協力している具体的な内容

「協力している」と回答した方の具体的な内容について（自由記載）

平成 28 年度受講者との協力
滋賀県看護協会研修センター、訪問看護支援センター担当者、県健康福祉部医療福祉推進課、各受講者が協力して活動している
訪問看護に関わる実践的な研修や事業に携わっているため実習の受け入れなどの協力をしている
訪問看護管理者交流会等で協力し合い、企画や助言者等に関わっている
情報交換
今年度の人材養成研修企画・運営、講師を協力して行った
共同で研修の企画をしている
看護協会立の訪問看護ステーションの所長が受講したため、定例の所長会等で協議している
情報共有・相談等
他 2 名受講者のうち 1 名と協働で研修企画など行った。
同じ検討会に参加している

主に県訪問看護ステーション協議会に加盟しているステーションの管理者が受講しているため、研修会等の企画・運営等で協力している。
教育委員会を立ち上げ、研修企画や活動企画を会議し、実践している

平成 29 年度受講者との協力
人材育成や災害研修などを通して相談をしている
滋賀県看護協会研修センター、訪問看護支援センター担当者、県健康福祉部医療福祉推進課、各受講者が協力して活動している
訪問看護管理者交流会等で協力し合い、企画や助言者等で関わっている
情報交換
今年度の人材養成研修企画・運営、講師を協力して行った
共同で研修の企画をしている
群馬県訪問看護事業所支援事業 ・肺炎に気づける訪問看護師をめざそう ・がん患者さんが「好きなように暮らしたい」を支えよう
鹿児島県訪問看護連絡協議会で一緒に研修検討
研修会の持ち方を全般的に相談
研修の合同企画
研修委員やファシリテーターと一緒にやっている
ステーション協議会の研修委員と一緒に担当。ACPの普及を目的としてでACPシートと手引き書、利用者用パンフレット作製中
訪問看護ステーション連絡会として「人生会議」についての研修を県の高度人材育成事業に申し込み認可されたため一緒に取り組んでいる
各地域で行う研修の案内をお互いの地域で広報している。
同じ検討会に参加している
講師の依頼や、新卒・新任訪問看護師育成検討会に参加している。
主に県訪問看護ステーション協議会に加盟しているステーションの管理者が受講しているため、研修会等の企画・運営等で協力している。
講師を依頼
教育委員会を立ち上げ、研修企画や活動企画を会議し、実践している

平成 30 年度受講者との協力
愛知県訪問看護ステーション協議会の役員のため情報交換をしている
滋賀県看護協会研修センター、訪問看護支援センター担当者、県健康福祉部医療福祉推進課、各受講者が協力して活動している
連携・機能拡大検討委員会の地域部会主催
訪問看護管理者交流会等で協力し合い、企画や助言者等で関わっている
情報交換
今年度の人材養成研修企画・運営、講師を協力して行った

共同で研修の企画をしている
群馬県訪問看護事業所支援事業 ・肺炎に気づける訪問看護師をめざそう ・がん患者さんが「好きなように暮らしたい」を支えよう
受講者が看護協会の職能委員長であったため、連携する機会があった。
埼玉県訪問看護ステーション協会・教育リスク部会担当、新入看護師の育成プログラムや管理研修、専門研修の担当をし、地域のステーションのスキルUPに協力している。 小児専門部会の担当をし、小児に対応できるステーションを増やす努力をしている。
鹿児島県訪問看護連絡協議会で一緒に研修検討
看護協会からの研修講師依頼を受けている
研修の合同企画
会議など積極的に参加している
ステーション協議会の研修委員と一緒に担当。ACPの普及を目的としてACPシートと手引き書、利用者用パンフレット作製中
訪問看護ステーション連絡会として「人生会議」についての研修を県の高度人材育成事業に申し込み認可されたため一緒に取り組んでいる
各地域で行う研修の案内をお互いの地域で広報している。
同じ検討会に参加している
講師の依頼や、新卒・新任訪問看護師育成検討会に参加している。
看護協会や連絡協議会の活動の中で、研修計画に携わっている
主に県訪問看護ステーション協議会に加盟しているステーションの管理者が受講しているため、研修会等の企画・運営等で協力している。
教育委員会を立ち上げ、研修企画や活動企画を会議し、実践している

協力していない理由

平成 28 年度受講者と協力していない理由
会う機会がなかった
積極的に関わりを持っていないため協力も求められない。 コロナ感染関連のため研修会や集まり等のきっかけがない
受講生を知らないため、依頼できない
受講者の存在を知らなかった
地域が遠く離れており、地域の現状課題も異なるため連携不足になっている。
受講者との直接のやり取りではなく、連絡協議会の地区毎の役員との連携を通して各地区との情報共有や研修会の計画を行っている
活動を行えていない
実務が忙しく、連絡をとる機会がなかった。
自分が訪問看護の現場から離れてしまった（部署異動した）ので、一緒に活動しづらい状況になってしまった。

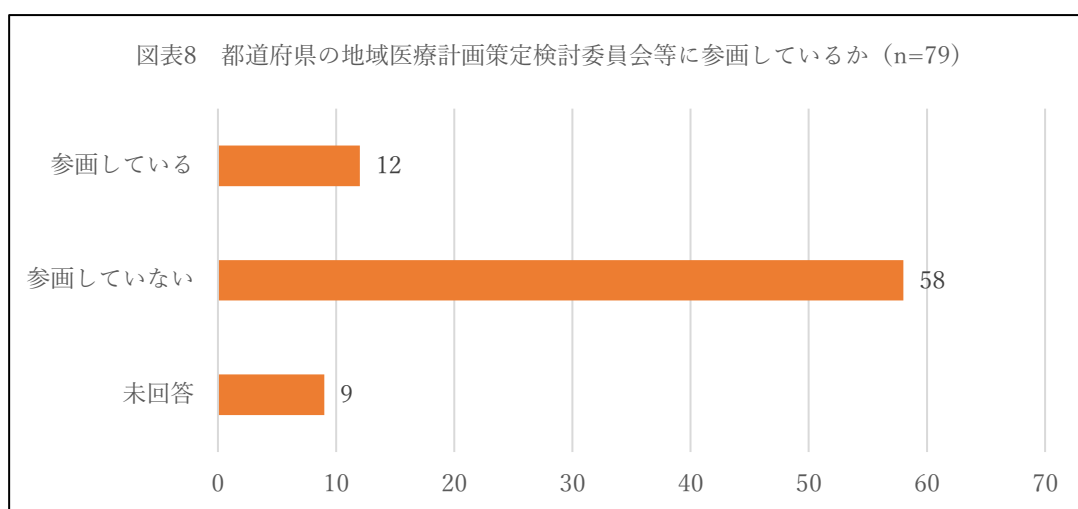
平成 29 年度受講者と協力していない理由
会う機会がなかった
積極的に関わりを持っていないため協力も求められない。 コロナ感染関連のため研修会や集まり等のきっかけがない
地域が違うため関わる機会がない、時間的な余裕がない
受講生を知らないため、依頼できない
受講者の存在を知らなかった
地域が遠く離れており、地域の現状課題も異なるため連携不足になっている。
受講者との直接のやり取りではなく、連絡協議会の地区毎の役員との連携を通して各地区との情報共有や研修会の計画を行っている
活動を行えていない
実務が忙しく、連絡をとる機会がなかった。
自分が訪問看護の現場から離れてしまった（部署異動した）ので、一緒に活動しづらい状況になってしまった。

平成 30 年度受講者と協力していない理由
会う機会がなかった
積極的に関わりを持っていないため協力も求められない。 コロナ感染関連のため研修会や集まり等のきっかけがない
地域が違うため関わる機会がない、時間的な余裕がない
各年度の受講者が誰か分からない。
地域が遠く離れており、地域の現状課題も異なるため連携不足になっている。
受講者との直接のやり取りではなく、連絡協議会の地区毎の役員との連携を通して各地区との情報共有や研修会の計画を行っている

活動を行えていない
受講者同士のネットワークが作れていない
実務が忙しく、連絡をとる機会がなかった。
前の受講者との交流なし。令和2年度受講者とは情報共有できています。
自分が訪問看護の現場から離れてしまった（部署異動した）ので、一緒に活動しづらい状況になってしまった。
必要性がなかった

7) 都道府県の地域医療計画策定検討委員会等に参画しているか。

「参画している」が12人(15.2%)、「参画していない」が58人(73.4%)、未回答が9人(11.4%)だった。

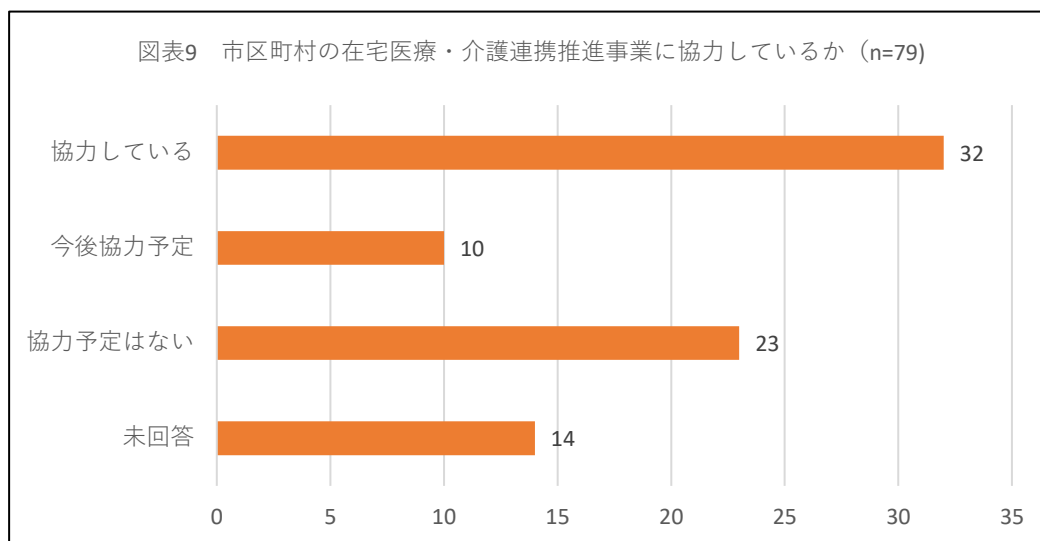


参画している方の協力内容について

平成30年6月21日～令和2年3月31日訪問看護ステーション機能強化事業運営委員会委員
令和2年4月1日～令和3年3月31日 茨城県訪問看護推進協議会委員
岩手県高齢者介護保険推進協議会へ委員として参加している
宮崎県訪問看護推進協議会委員として参加している
秩父医療協議会委員として参画している
最上地域保健医療協議会に委員として参画している。
山形県村山地域の地域保健医療協議会へ参加している。(今年度は書面協議にて実施)
2020.6まで、地域包括ケア推進ネットワーク会議に委員として参加していた。
県立総合病院地域医療支援病院運営委員会に参加。訪問看護ステーションとの連携について、要望や意見を出している。
大阪府堺市保健医療審議会に参画している。
その中の分科会で在宅ターミナルケア部会に委員として参加。
県南地域医療構想区域医療・介護体制検討部会委員会に委員として参画している。
地域医療構想会議へ委員として参加

8) 市区町村の在宅医療・介護連携推進事業に協力しているか。

「協力している」が 32 人 (40.5%)、「今後協力予定である」が 10 人 (12.7%)、「協力の予定はない」が 23 人 (29.1%)、未回答が 14 人 (17.7%) だった。



協力している方の協力内容について

・ 守山区運営委員や守山区訪問看護連絡会を運営している
・ 地域活動や研修企画をしており多職種で 80 名の研修などを行っている
・ 高島市介護サービス事業所協議会の副会長として各事業を企画運営している
・ 障がい者福祉計画の検討委員
・ 障がい者災害時個別支援プラン作成委員
在宅ケア研究会委員
医療的ケア児に対する検討会、難病地域会議メンバー
北茨城市在宅医療・介護推進協議会ワーキングメンバー
委員として参加している
介護連携推進委員会に委員として参加している
ACP ワーキンググループのグループメンバーとして参加している
地域の医療・介護連絡推進委員として参加している
宮城県在宅医療推進検討会に委員として参加している
専門性の高い看護職員派遣事業の委員として会議に参加している。
地区医師在宅推進事業を実施している。
・ 令和元年度 熊本市難病対策地域協議
・ 熊本市地域リハビリテーション協議会：訪問看護・訪問介護 合同検討委員会
在宅医療介護連携推進会議の委員として参加している
県中部医療圏における在宅と医療機関との退院支援ルール部会の会員
ちちぶ圏域ケア推進会議委員・秩父地域訪問サービス事業者連絡協議会委員として参画している。
・ 最上地域保健医療協議会在宅専門部会に委員として参画している。
・ 最上地域在宅医療推進研究会に委員として参画している。

・最上地域難病協議会に委員として参画している。 ・最上地域医療的ケア児支援協議会に委員として参画している。 ・最上地域看護師確保ネットワーク協議会に委員として参画している。 ・最上地域看護管理者ネットワーク会議に委員として参画している。
山形市および社会福祉協議会と連携し、山形市訪問看護事業所連絡会の役員として参加している。
地域包括主催の研修会等の参加。
かかりつけ薬剤師、薬局推進連絡会参加 在宅医療・介護の連携推進協議会参加
市の包括ケア推進会議、在宅医療介護連携検討部会に委員として参加している。
中郡在宅医療・介護連携支援センター運営委員として委員会の開催や研修の企画、専門職からの相談業務を行っている。
地域の在宅医療・介護連携推進事業で行われている、地域の研修会へ参加。訪問看護活動の紹介や訪問看護師としての意見を伝えている。
地域の自立支援協議会の委員として参加
介護保険運営協議会・在宅医療介護推進協議会・障害者施策推進協議会の委員をしていた。
平成 30 年度まで委員として参加しており、31 年からは自事業所のスタッフが委員として参加している
市が主催する他職種連携の機会、テーマに沿った事例を挙げてシンポジストとして参加した。来期、在宅医療介護連携会議委員に参加する予定。
訪問看護ステーション部会長が参加している。役割があれば、積極的に関わりたい。
在宅医療介護連携推進協議会委員
在宅医療と介護の連携推進委員会に委員として参加している
①在宅医療・介護連携推進会議 ②地域密着型サービス運営委員会の委員として参画している。
医療介護連携推進会議に委員として参加
在宅医療・介護連携推進委員会に委員として参加している
本年度は会議が中止となっているが、例年では奥越地域医療連携体制会議・奥越地域医療構想調整会議に参加している。
奥越地区障害者自立支援協議会に参加した。
「筑紫地区 在宅医療・介護連携推進検討会」に委員として参加している。
訪問看護師の代表としての立場であるが、保健所職員も同席され情報の共有可能。
市主催の地域ケア会議、在宅医療・介護連携推進部会へ委員として参加している

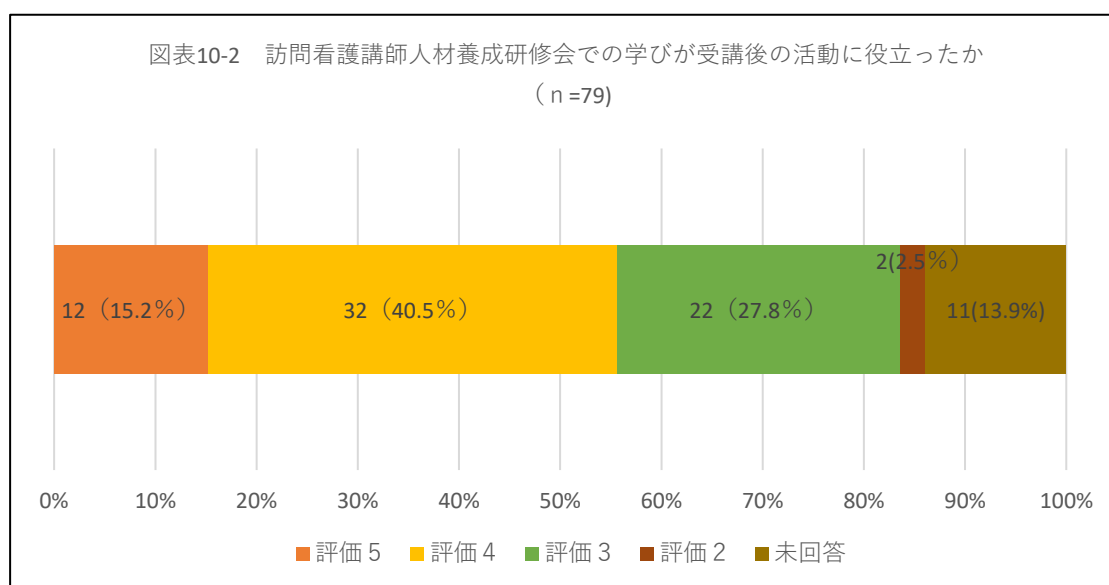
11) 講師人材養成研修会が受講後の活動に役立ったか

訪問看護講師人材養成研修会で学んだことが、受講後の活動に役立ったかについて

5段階評価で、「評価5」が12人(15.2%)、「評価4」32人(40.5%)、「評価3」22人(27.8%)、「評価2」2人(2.5%)であった。評価平均は3.8であった。

図表 10-1

評価5	12	15.2%
評価4	32	40.5%
評価3	22	27.8%
評価2	2	2.5%
未回答	11	13.9%



5 段階評価の評価理由 （一部抜粋）

■評価 5
人材を育成していく視点が欠けており手段などを学ぶことができた
人材養成の講義が活かせるため 人材養成講習終了者に相談できる
地域課題が明確になった。自身の知り得ない県のデータを知ることができた 全国の訪問看護の課題も少し見えた。地域差がある事を学んだ
周囲の状況から現状において研修会の開催等は難しいが、実現可能なことから始めたいと考え、 上司と相談し来年度新卒看護師の雇用を実現し、キラキラナースの育成に着手することになった。 この経験を活かし新卒看護師の育成と訪問看護師の養成に関する研修の開催に繋げていく ことができると考える。本研修を受講したことが大きなきっかけになっている
実際に活動を行っていないが、訪問看護の課題、人材養成に関して色々な方と実際の現場の話 しを聞き情報交換ができ、自分自身の課題が明確になった。
地域の課題を見直し、県の看護協会との情報共有や協働に向けてコミュニケーションをとる機 会となった。
研修の基本を知ることができた 計画の立て方、実行の仕方が、机上の空論だけでなく実際のモノとして理解できた 訪問看護を地域でどのように活かしていくのか、今後考える一端となった
全国の動向がわかった上での研修会で、若手からベテランの方、積極的に活動をしておられる 方など様々な意見が聞けて、とても参考になった。
他県の課題や取り組みを聞き、共通点や取り組むべき内容に気付かされた 訪問看護師の人材育成の必要性を学校側に理解してもらう努力が必要
学んだことを研修企画に中に取り入れることができた。

■評価 4
地域課題に目を向け活動に活かしている
全国の訪問看護師の意見が聞ける 訪問看護は地域性が強い
学生への講義で役立った
・ 自覚が生まれた ・ 自分自身に不足している部分が明確になった ・ 伝える事の難しさ大切さを知った
職場内で育成面接等をする際に、自分の気持ちと相手の気持ちをすりあわせることに着眼でき るようになった
訪問看護のニーズが高まっている、必要性を学ぶ事ができた。また私自身が他職種や利用者に 訪問看護についてどのように説明できるのか考える良い機会となった。
講義内容自体は実になる事が多くあり充実していた。 今後は地域でどのように連携して訪問看護を推進し、人材確保やスキルアップするかの繋がり を作る事が必要であると感じた

地域における課題については普段から理解していたが、事前課題として様々なデータを知ったことにより、その根拠が明確となり、今後自分達のすべき方向性に気づくことができた。また、研修会で講義を受講できたことで、訪問看護に関する様々な情報、知識を先確認することができたことで、その後の自己の活動に役立てることができた。
今後地域全体の人材養成に力を入れなければ益々人材不足に悩み、閉鎖に追い込まれることになると思う。自分の地域で訪問看護ステーション同士の悩みを共有し、まずは管理者が課題や強み弱みを認識し、スタッフ教育していけると良いということがこの研修でみえてきたため
今後の人材養成について各県の課題等聞くことが出来、具体的に活動の方向性を考えることができた。しかし新型コロナウイルス感染拡大で研修会自体が開催できず、人材不足の訪問看護にとってはとても大変な状況。人材養成について今後も活動を行っていききたいと思う
研修企画についても資料は大いに参考になった。行政や関係者に訪問看護の現状等説明する資料としてデータを活用させていただいた。 また、各論での具体的な内容は、研修の進め方の参考にさせていただいた。
訪問看護を導入するにあたり、訪問看護の価値を伝える時は、相手の分かる言葉で分かりやすく事例を用いながら伝えることができるようになってきた。又、説明の後には、どのように理解したか確認することを心掛けるようになった。状況を判断し、訪問看護の必要回数を説明できるようになってきた。
訪問看護の量的、質的確保のために必要な視点を学ぶことが出来た。また、研修会の企画・立案という初めての作業を体験することが出来、今後の活動を行ううえでの学びとなった。
行政関係者とのつながりができた。 他事業所の管理者と情報交換ができた。 最新の情報を得ることができた。 アセスメントの手法を学ぶことができた。
ロールプレイはとても役に立ち、看護大学の講義や、地域の活動（訪問看護の周知）や、院内の新人研修での訪問看護の説明などに生かすことができた。 全体的には講義の内容が濃く、スピードがあり、自分の理解がついていなかった。
県の担当者や他のステーションの所長などと一緒に考えを深めることができた。また、今後相談する人脈ができた。
研修会を開催する目的意識が高まり、有意義な研修会を企画することができるようになった
全国共通の課題と、地域ごとの課題を知ることができた。 当県の在宅医療・看護の進み具合や問題点などを、他県と比較することで、できていること・まだ不足していることがとても良く分かった。 行政と一緒に参加し、課題を共有し、県の施策にもつながることがよかった。
学習の支援と教育の項目の所の講義を受け研修への組み立ての仕方が参考になりました
学びとやる気は高まったが、参加者が同じ県でも地域の特性と活動地域が異なるため、一緒に活動することが難しいと感じる。近い市町村であると活動しやすいと考える。
今後訪問看護に求められることを、社会情勢に照らして考える機会となった。 他県の方とも交流し、様々な経験談や現状を交流でき、元気になれた。
研修資料が最新のもので講師をするうえでデータ等役に立った。 他の地域の訪問看護の現状を生で聞く事ができて横の繋がりができた。
訪問看護の人材育成の重要性は実感できたが、それぞれ地域差がある中、また、スタッフとい

う職位で行う困難さがある
グループワークの進行がスムーズになる リーダーとして地域の活性化推進
・新しい知見を得た。 ・他県の方との交流があった。
グループワークで他府県の取り組みや課題について情報を得たことが、非常に役に立った。
訪問看護の利点についての伝え方の工夫について学べた
他の県の取り組み状況を知ることができた。県内の参加者と研修後も交流を持つことができた。 研修には行政の方も参加されていたので、行政の方と顔見知りになることができた
他の地域のステーションの状況を聞くことができ、自事業所のおかれている状況を客観的に見ることができた。
訪問看護講師人材養成研修会の知名度が低い。 実際に参加してその意義を理解したが、肩書を称するには研修時間が短く内容が若干希薄に思えた。
■評価 3
現在の状態では評価できない
課題の抽出や企画から研修会の準備の流れや予算取りまでについて役立った。協同して開催することの効果や研修を通してモチベーションが上がった。
今年はコロナ禍の中で活動しにくかった。まだ人材を育成するためのスキルが自分には不足していると思うが、研修会での学びを生かせるように努力していきたい
訪問看護の現状把握には情報が役に立っている。しかし研修の企画等を担当するにはそれが可能な人材を推薦しているつもりだが、まだ県内全域を把握する力量、方法等にフォローが必要。また、企画力、交渉力も求められる
受講した当初は活用できるモデルであったが、コロナ禍で研修の概念が大きく変化したため、もう少し、違う形での研修内容が必要だと思う
自分に力がないので、研修会で学んだからとすぐに活動することはできないが、グループの方と交流が持てたのは、意義があると思う。
研修会は自身の勉強にはなったがコロナ禍となり研修会の機会が減っているため活動が狭められている。 ZOOM等を利用した講習はうまくできない。
知識として参考になった
受講後に活動できていないので、なんとも言えない
ハイレベルの研修会に参加したが、ハイレベルの研修会の企画ができるのか自信がない（不安がある）。
県の地域医療課職員と2か所の訪問看護ステーション管理者との地域課題を抽出し、対策を考えることは有意義だった。研修後も訪問看護ステーションの管理者と研修委員で共に活動することが出来た。県の地域医療課職員とはその後交流が無く、関わり方がわからなかった。
基礎知識はとても役に立っていると思うが、具体的活動にはつなげられていない。
講義の内容は役に立った。グループでのカンファレンスは何をすればよいのか十分把握できなかった

どんなことをしていくべきなのか考える機会にはなったが、実際に研修を企画する立場にない（研修の企画は看護協会で行っている）
その時は他県の人との意見交換もできて有意義だったが、それを活用できていない為
受講生の方々はもともと様々な活動している方たちなのではないでしょうか？今回の研修がすごく役立ったとも言えないかもしれない。が、たくさんの地域の方々との出会いは貴重であった。
今までも地域で講師として活動していたが、今回、訪問看護緒を取り巻く情勢や他県の取り組みを学ぶことができ、より地域性を考慮した発信ができると思う。
時間経過とともに、詳細な内容を忘れつつある。 しかし、実際の場面で研修企画やグループ討論の進め方、講師を求められたとき資料を見返し確認できる。
■評価 2
内容が若干抽象的でした、具体的にどう教えたらいのか、どんな研修を実際行って反響があったのか知りたかった。全く同じように、となると地域性やオリジナリティに欠けるかと思うが、一から企画を練り上げて実施に至るまでの時間の確保がなかなか難しいです。
実務人員の一人であるため、なかなか活動計画までは到達しない。

12) 地域の研修会等を企画・開催等をしていくために必要な支援（自由記載）

研修会の企画・運営等の相談先
物理的・経済的な支援
県や訪問看護協議会のバックアップ
研修会の運営の準備等の支援
専門的組織
マンパワー・時間の確保
県、看護協会やステーション協議会など組織と共催する。
県の行政や看護協会、連絡協議会の支援が必要だと感じる
県全体を地域ごとに分けたときの企画・運営は県連絡協議会ブロックごとの役員が共催で研修を行う形が良いと思う。参加率も良いと思う。そのコーディネートは県や人材研修に参加した管理者が行うと良いと思う
研修の企画運営の相談、アドバイス、物理的支援
研修会の企画・運営にあたって経済的な支援
各地域から、人材養成研修会に参加出来るような経済的な支援
コロナ禍での研修の開催に必要な資源が必要
課題を訪問看護管理者に周知し、企画・開催に向けて目標統一を図る
同時に広報活動を行っていく。通常業務を行いかつ、コロナ感染対策を講じた実施となると研修受講の環境面に差が出てくる可能性がある。研修会開催に向けての補助金などの支援があると良いと考える
業務内での活動の保証（可能な範囲内で）
これからは、Web 開催・運営は欠かせない、そして、訪問看護ステーションの職員で長けている人が少ないこともあり、Web 関連の研修を開催してほしい
全国共通に参加できるアプリがあればありがたい。そのアプリから、全国の各事業者や団体が実施する研修にアクセスできると研修の機会も増え、効率化が図れる。現在は、他業種・異団体が混在する研修申し込みアプリしかないため、訪問看護に関する内容を探すのが難しいため
講師等人材の紹介
・ 企画内容の検討から実施に至るまでの協力・支援者 ・ 実際に経験された方からの助言 ・ 研修場所の確保や運営資金の援助 ・ 他地域との協力企画
良い研修会の事例や講師の紹介
今後の研修方法や機会を考えると ZOOM 等の I C T を有効利用できるよう、操作方法を含めて教えてほしい。
研修の開催にあたり、内容に応じた講師の推薦があるとスムーズに企画ができると考える。
研修参加者同士（年度をまたいで）のコミュニケーションがもっととれるようなシステム
1 番は、事業所のスタッフの増員。
法人に訪問看護ステーションの増員が必要と知らしめることが必要。
研修会を必要とする地域の問題点を探る。
県や市町村の職員の方に、訪問看護の普及・啓発の必要性を理解してもらうための働きかけ。

これは一人では難しいと感じるので、国や行政が動いてほしい。
地域で求められているニーズの把握をアンケート調査などで支援してほしい 研修を組み立てる際に必要な情報の提供
介護・行政・医療との連携の質を向上させていくこと。学ぶ意欲を引き出すための、地域との連携と課題を共有する場と相談先と支援、経済的な支援と職場の理解が必要。
企画をした場合の広報活動の協力
経済的支援、自治体からの応援の気持ち、自治体からの依頼
参加率がアップするような研修テーマ支援 講師の紹介
広報についての支援やアドバイスがあるとより多くの訪問看護師に参加してもらえと思う。
看護協会や訪問看護支援センター、訪問看護連絡協議会との連携 研修の際の費用（講師・会場費・Web 環境整備等）
地域で、訪問看護ステーション全体が活躍できるよう、まずは小さいエリアの連携強化が必要 研修の企画・開催は、近くの訪問看護ステーションのニーズに基づいて行う
訪問看護に関する研修開催状況の情報 主催者別（都道府県別訪問看護事業協会、看護協会）の情報一覧。テーマ、講師等。
看護協会ははじめ 臨床サイドの看護教育の見直し。 病院では意思決定支援の重要性は論じられるが、在宅療養については繋がりが希薄。 臨床と在宅の間の溝が解消できていないことが多い。
現情勢の中で他地域がどのように研修を企画・運営しているのか。 リモート研修を計画するにあたり、どのような準備や周知が必要か。

2. 「研修会を開催した」「講師として活動した」と回答した人の研修会詳細について

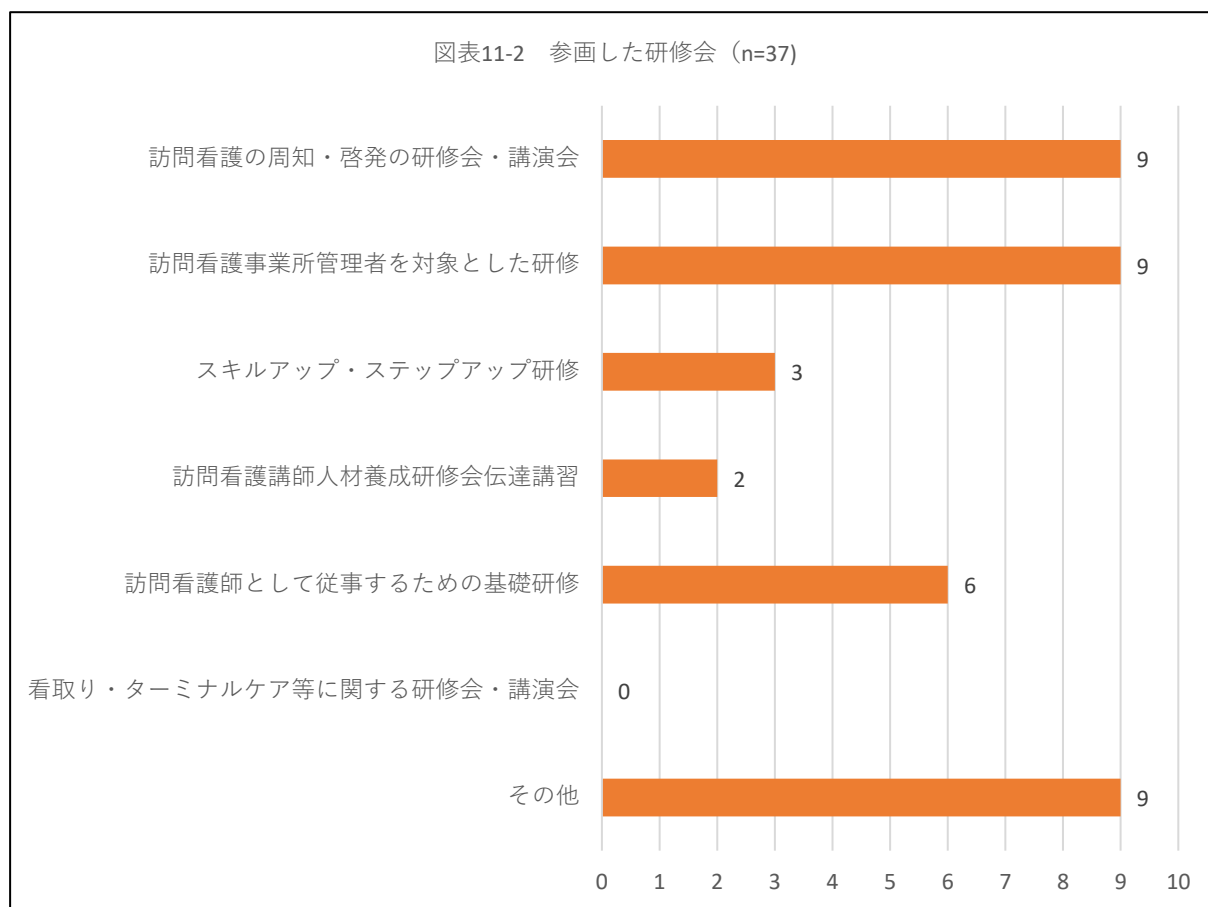
[n = 37、 p 3 参照]

①参画した研修会について

「訪問看護の周知・啓発の研修会等」9件(24.3%)、「訪問看護事業所管理者を対象とした研修会等」9件(24.3%)、が多く、次いで「訪問看護師として従事するための基礎研修会等」6件(16.2%)、「スキルアップ・ステップアップ研修」3件(8.1%)、「訪問看護講師人材養成研修会伝達講習」2件(5.4%)の順であった。「その他」が9件(24.3%)あった。

図表 11-1

訪問看護の周知・啓発の研修会・講演会	9	24.3%
訪問看護事業所管理者を対象とした研修	9	24.3%
スキルアップ・ステップアップ研修	3	8.1%
訪問看護講師人材養成研修会伝達講習	2	5.4%
訪問看護師として従事するための基礎研修	6	16.2%
看取り・ターミナルケア等に関する研修会・講演会	0	0.0%
その他	9	24.3%



② 研修会のタイトル

令和2年度訪問看護ステーション管理者研修（ZOOM 使用）「人材育成と JNA ラダーの活用」
滋賀県訪問看護ステーション同士の災害・感染症対策連携を考える
主任介護専門員研修
新任 1～3 年の職員相談会・交流会
難病患者等ホームヘルパー養成講座
訪問看護師とケアマネジャーの連携
訪問看護管理者交流会
管理者育成研修Ⅱ（3 回シリーズ）～訪問看護の価値・魅力を伝えよう～
感染予防のための勉強会
ZOOM 研修 コロナ禍の今だから 専門家に聞く！
訪問看護師養成講習会
もも小児在宅研究会
訪問看護新人管理者研修
訪問看護講師人材養成研修会伝達講習
在宅ケア普及啓発県民フォーラム
病気があっても自分らしく自宅で過ごすために
在宅における災害対策～災害対策と COVID-19 対策～
訪問看護の魅力
「地域包括ケア」時代～看護に求められるもの～
看護職のセカンドライフセミナー
看護職の就職フェア
もっと知ろう訪問看護
訪問看護ってなあに？一地域で生き生き(生き活き)と暮らすためにー
訪問看護の基礎知識 in 中信
当事者フィールドワーク
訪問看護ビギナーズ研修
「訪問看護で見える未来」
セカンドキャリア周知セミナー（同タイトルで2 回開催）
訪問看護師養成講習会
管理者研修
訪問看護記録～確実な記録と監査対応～
福岡県委託事業：訪問看護ステーション連携強化事業 筑紫地区第1 回交流会
訪問看護ステーションにおける新型コロナウイルス感染症対策の現状・問題点とこれから。
排便ケアのあれこれ。（リモート形式：ZOOM 会議）
釧路地区訪問看護連絡協議会 事例検討会

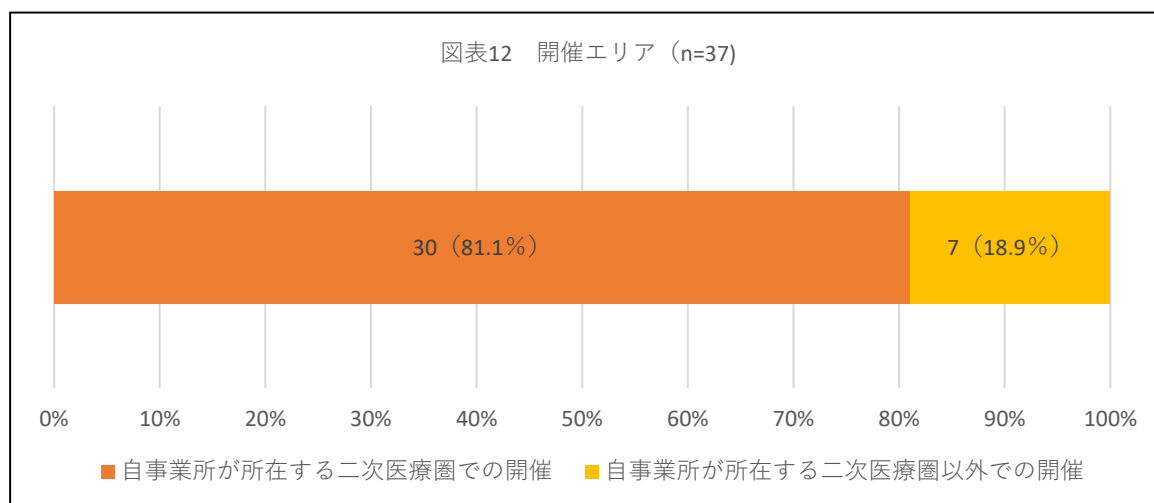
③ 具体的な内容

「訪問看護における人材育成」聖路加国際大学大学院看護学研究科教授 ○○氏 「JNA ラダー導入までのプロセスと現在の取り組み」
各圏域の新型コロナウイルス感染発生時の応援体制等、現在の取り組みの経過と課題を発表し、県から災害時の医療品等の供給や、介護関連施設の事業所間の応援事業の説明を受け、今後の圏域ごとのグループワークで課題や連携体制を考える
訪問看護の理解、訪問看護とケアマネジャーの連携
多職種連携についての講義
地域の多職種の方に訪問看護についての理解を深めて頂くために、訪問看護の制度についてや現状、多職種連携等について講演した
管理者同士の悩みを出し合い、それは共通した課題であることもあるので、KJ 法で整理し分析することで問題解決の糸口になるよう、またアクションプランへ導けるように進めていく
・管理者と人材育成～人を育てる ・ロールプレイ～訪問看護の価値を伝える ・グループワーク～伝わるリーフレットを作ろう
グループワーク、ロールプレイ
Web にてガウンテクニックの実際や講義、グループワークを実施
毎月 1 回、2 時間程度、専門領域の方をゲストスピーカーに迎えて、ミニレクチャーと受講者によるインタビューの実施
これまでの講師は、災害看護、感染管理、褥瘡管理、精神科看護、がん看護のスペシャリストが担当した。
今後の予定、重度心身障害児のケア、摂食嚥下、EOL ケア、地域連携、葬祭、がん制度と経済、老人看護、薬学などを予定している
看護の現状、訪問看護の現状と課題
講師によるミニ勉強会（医師、薬剤師、保健師、看護学校の教師、リハビリ職員、行政職員など）
訪問看護管理者 3 年未満の管理者へ
訪問看護管理者の基礎、経営方法、現在の自ステーションの問題点を洗い出す。各地区の特徴から問題点解決のためのアクションを具体的に書き出す
・訪問看護ステーションの管理者の役割と責任 ・訪問看護ステーションの管理者としての知識・技術とは ・組織分析と取り組み
自分が学んだことを伝達した
基調講演：「在宅ケアの不思議な力」講師 ○○先生 シンポジウム：専門職とともに安心して自宅で過ごす シンポジスト 訪問診療医、訪問看護 S T 所長、ケアマネジャー コメンテーター ○○先生
災害対策と感染対策における BCP ガイドラインについて
訪問看護の実際

I 地域包括ケアとは
II 地域包括ケア時代に必要な看護スキルとは
1. ニーズをとらえる力
2. ケアする力
3. 協働する力
4. 意思決定を支える力
定年後の転職に訪問看護を選択していただくように、訪問看護のケアについてや働き方などを講演した。大阪府のハローワークとの共催。
これから訪問看護をしようと思っている受講者の方へ、当事業所で訪問している訪問看護の実践について講義（小児分野）
地域の民生委員を対象とした研修会において、1 時間程度訪問看護についての紹介を行った。
訪問看護従事者の新人研修会
訪問看護や地域医療に関してや、仕事のやりがいなどを伝えた
全 6 回の開催。訪問看護の基本や地域情報、訪問看護技術などに関する研修を YouTube 配信で行った。最後の会は ZOOM を使って交流会を実施。
・ 訪問看護を取り巻く環境
・ 訪問看護の内容、事例紹介
・ 事例紹介「私のセカンドキャリア」、質疑応答、情報交換 ⇒病院勤務から訪問看護へ
集合研修 4 日間、e ラーニング
訪問看護記録の意味づけ、具体的内容、必要書類、記録業務の効率化
時勢にあった働き方＝リモート交流会の実施、はじめての試み。IT 化の促進。 世界を変えた新型コロナウイルス感染症について正しく理解する。 筑紫地区における情報共有と協力体制づくり。 以上の 3 点を目標とし、参加者の事前アンケートの中から問題を抽出。 交流会では問題を共有し協議、アドバイザーである医師達からの多くの意見や指導を得ることができた。医科との連携の場となっている。
地域の訪問看護ステーションより（3 ステーション）事例を持ち寄り発表、検討を行った。

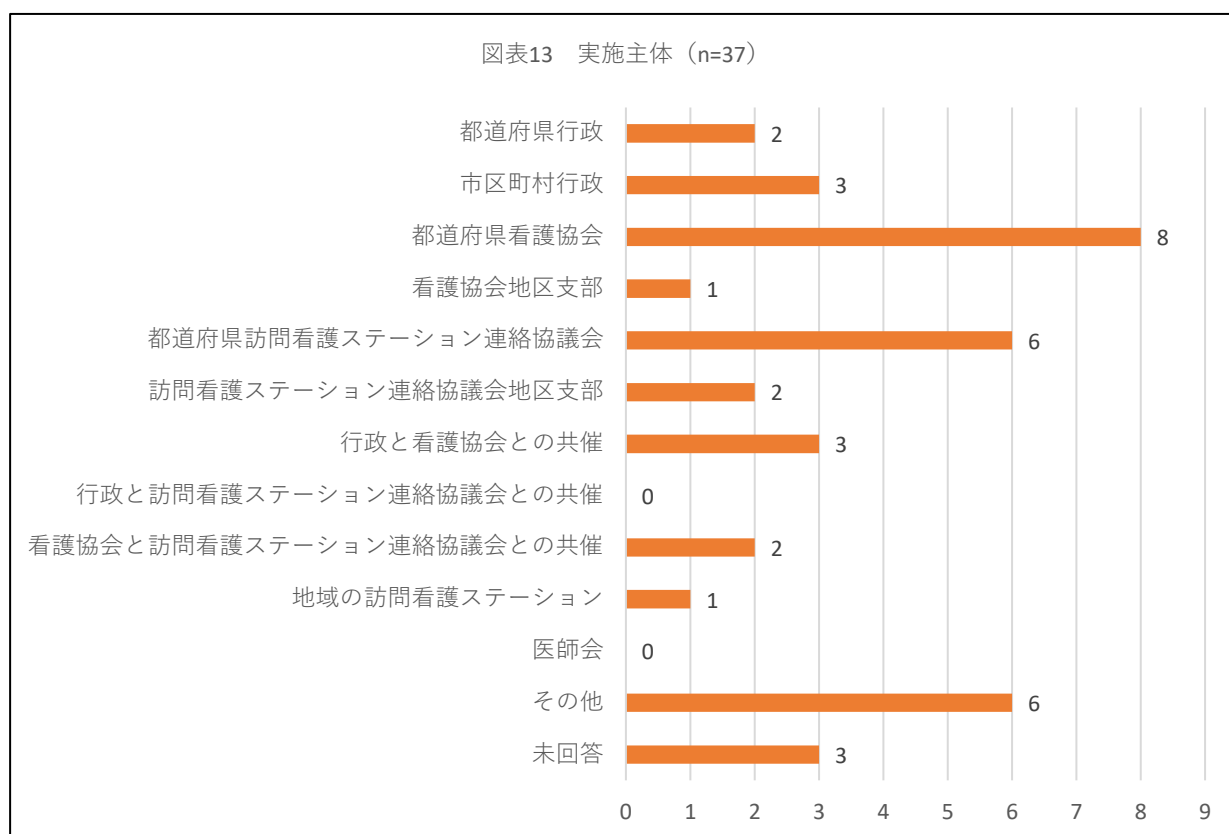
④開催エリアについて

「自事業所が所在する二次医療圏での開催」が 30 件(81.1%)、「自事業所が所在する二次医療圏以外での開催」が 7 件(18.9%)であった。



⑤実施主体（1つ選択）

「都道府県看護協会」が 8 件(21.6%)で最も多く、次いで「都道府県訪問看護ステーション連絡協議会」6 件 (16.2%)、「市区町村行政」「行政と看護協会との共催」がそれぞれ 3 件(8.1%)、「都道府県行政」「訪問看護ステーション連絡協議会地区支部」「看護協会と訪問看護ステーション連絡協議会との共催」が 2 件(5.4%)、「看護協会地区支部」「地域の訪問看護ステーション」が 1 件 (2.7%) であった。

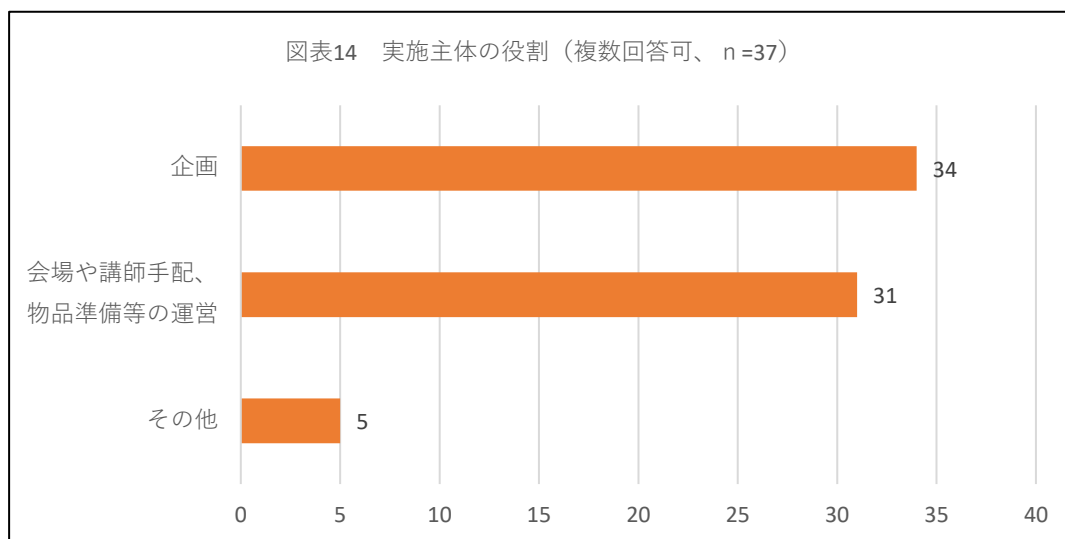


また「その他」として6件(16.2%)挙がっており、以下の通りであった。(一部抜粋)

- ・有志
- ・地域の小児科医と当訪問看護ステーションを中心に開催
- ・大学看護学科
- ・法人内
- ・民生委員
- ・高校

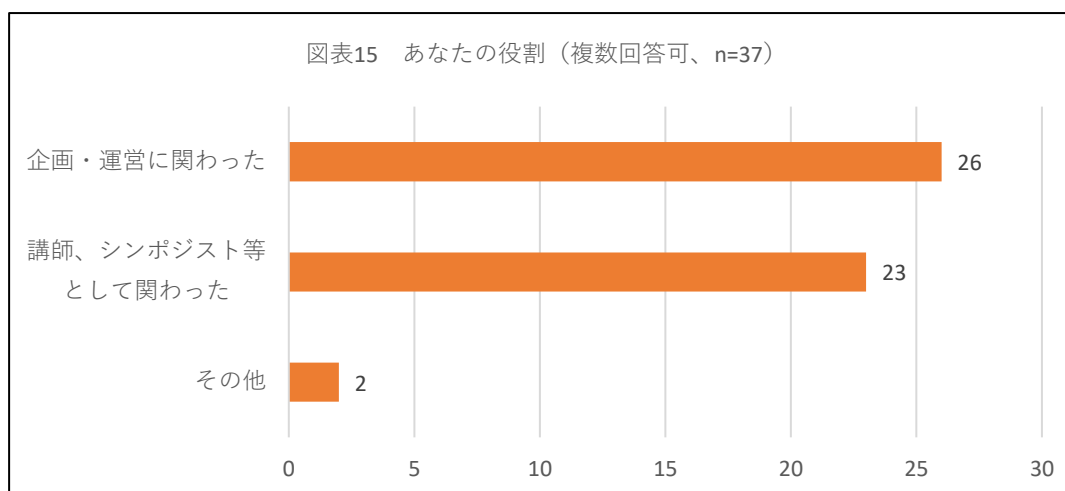
⑥実施主体の役割（複数回答可）

「企画」が34件(91.9%)、「会場や講師手配、物品準備等の運営」が31件(83.8%)であった。「その他」として5件(13.5%)挙がっており、内訳は「講師」、「日程調整、研修要項作成、運営」、「web環境準備」等であった。



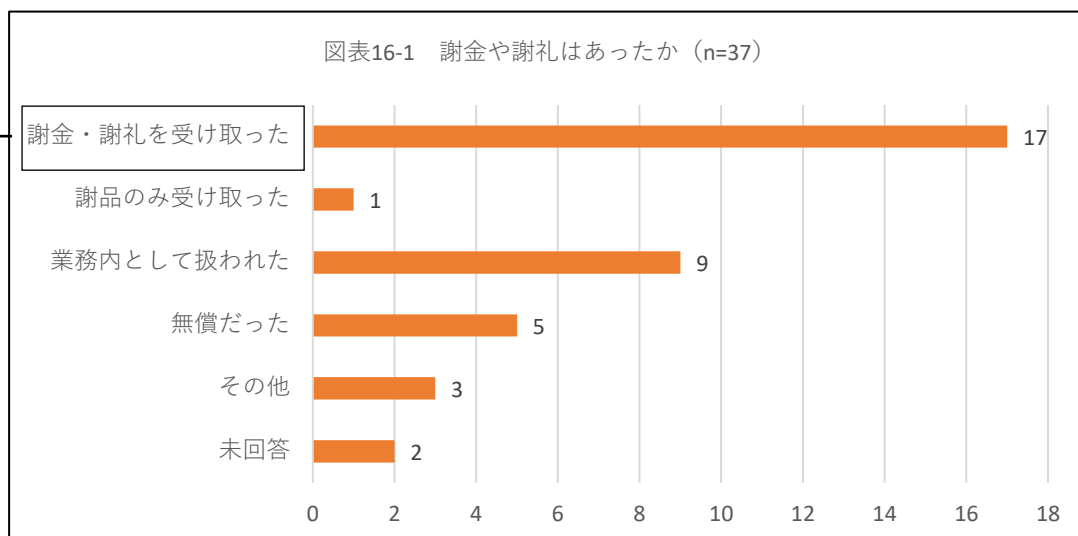
⑦あなたの役割（複数回答可）

「企画・運営に関わった」が26件(70.3%)、「講師、シンポジスト等として関わった」23件(62.2%)であった。「その他」は2件(5.4%)で、内訳は「グループワークファシリテーター」であった。



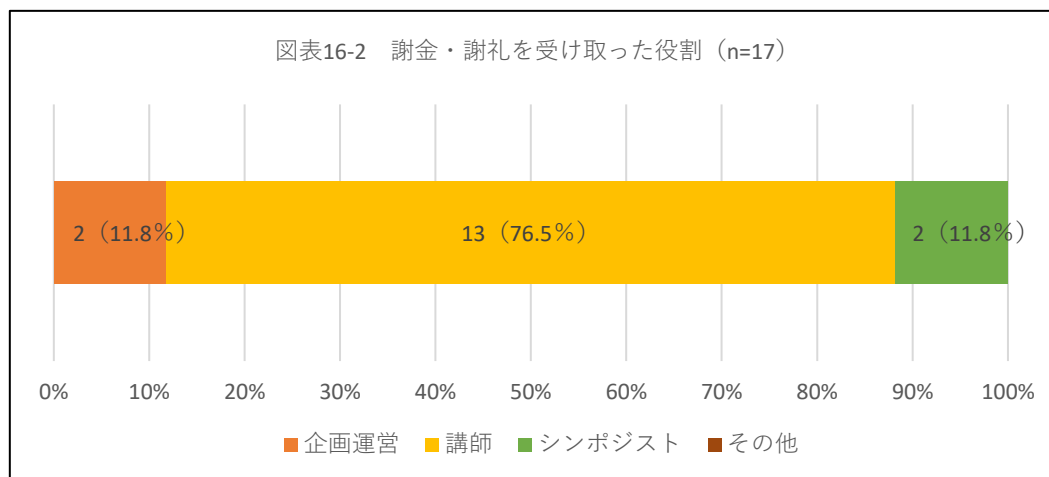
⑧開催にあたり謝金や謝礼はあったか。

「謝金・謝礼を受け取った」が17人(45.9%)、「謝品のみ受け取った」1名(2.7%)、「業務内として扱われた」9人(24.3%)、「無償だった」5人(13.5%)、「その他」3人(8.1%)だった。



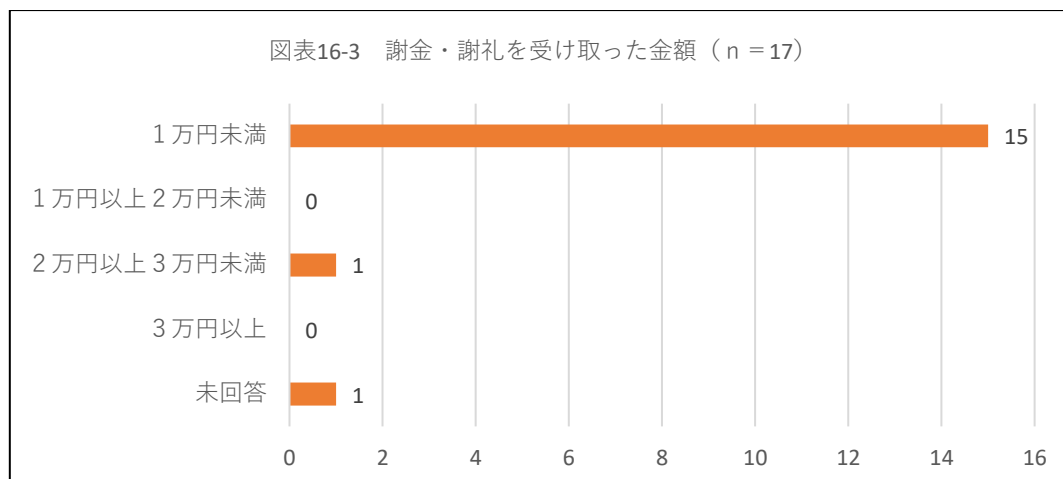
謝金・謝礼を受け取ったと回答した17名の役割

「講師」13人(76.5%)と最も多く、「企画運営」「シンポジスト」が2名(11.8%)だった。



謝金・謝礼を受け取ったと回答した17名の謝金の金額

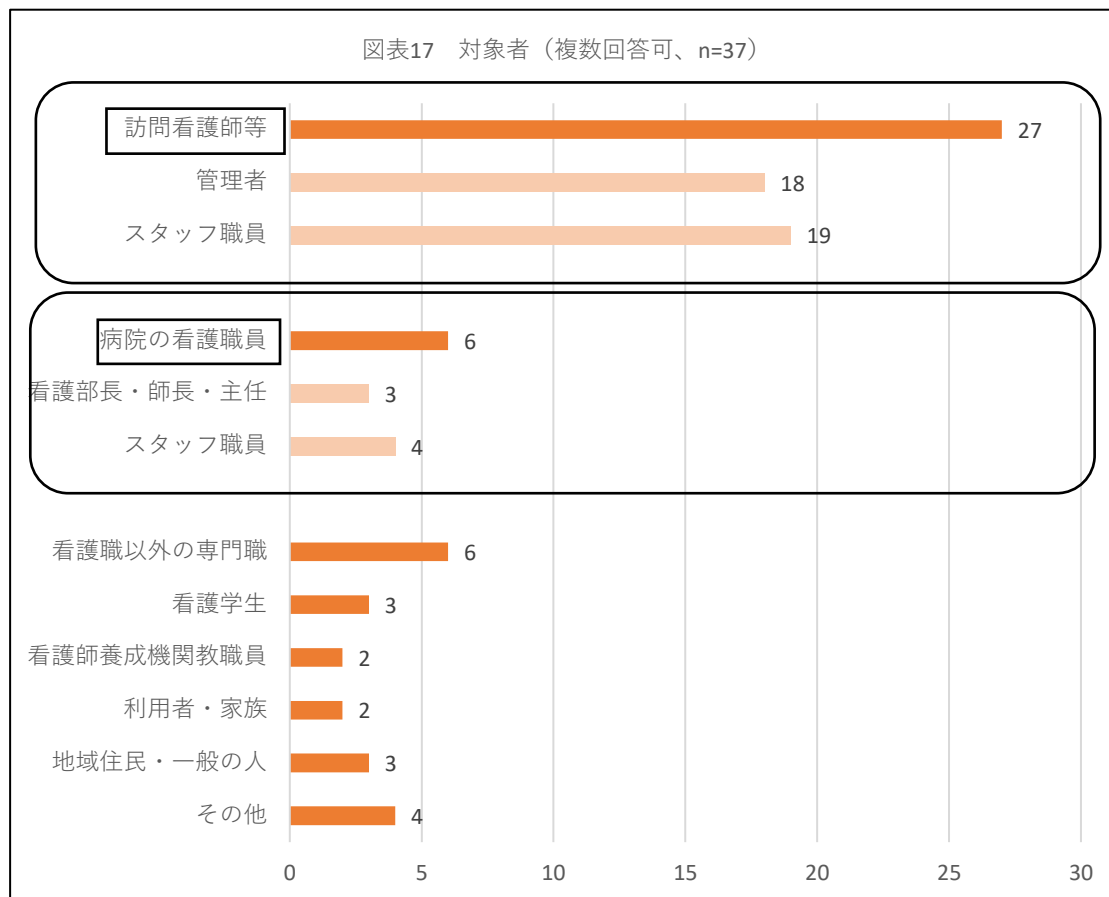
「1万円未満」が15人(88.2%)、「2万円以上3万円未満」が1人(5.9%)だった。



- ・「謝品のみ受け取った」と回答した1名の役割は「講師」だった。
- ・「業務内として扱われた」と回答した9名の役割は「企画運営」が6名、「講師」が3名だった。
- ・「無償だった」と回答した5名の役割は「企画運営」が2名、「講師」が3名だった。

⑨対象者（複数回答可）

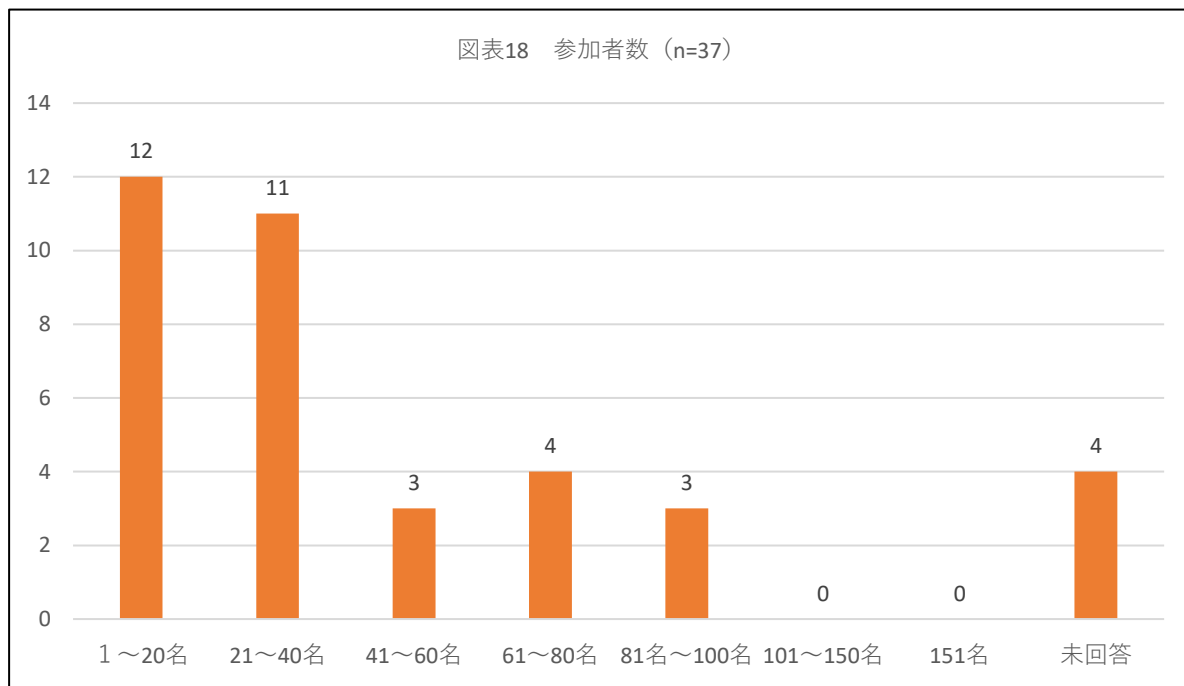
「訪問看護師等」が27件(73.0%)、うち「管理者」18件(48.6%)、「スタッフ職員」19件(51.4%)、「病院の看護職員」が6件(16.2%)、うち「看護部長・師長・主任」3件(8.1%)、「スタッフ職員」4件(10.8%)となっており、「看護職以外の専門職」(ケアマネジャー、ヘルパー、保健師、医師等)6件(16.2%)、「看護学生」「地域住民・一般の人」3件(8.1%)、「看護師養成機関教職員」「利用者・家族」2件(5.4%)となっている。



「その他」は4件(10.8%)で、内訳は介護福祉士等、民生委員であった。

⑩参加者数

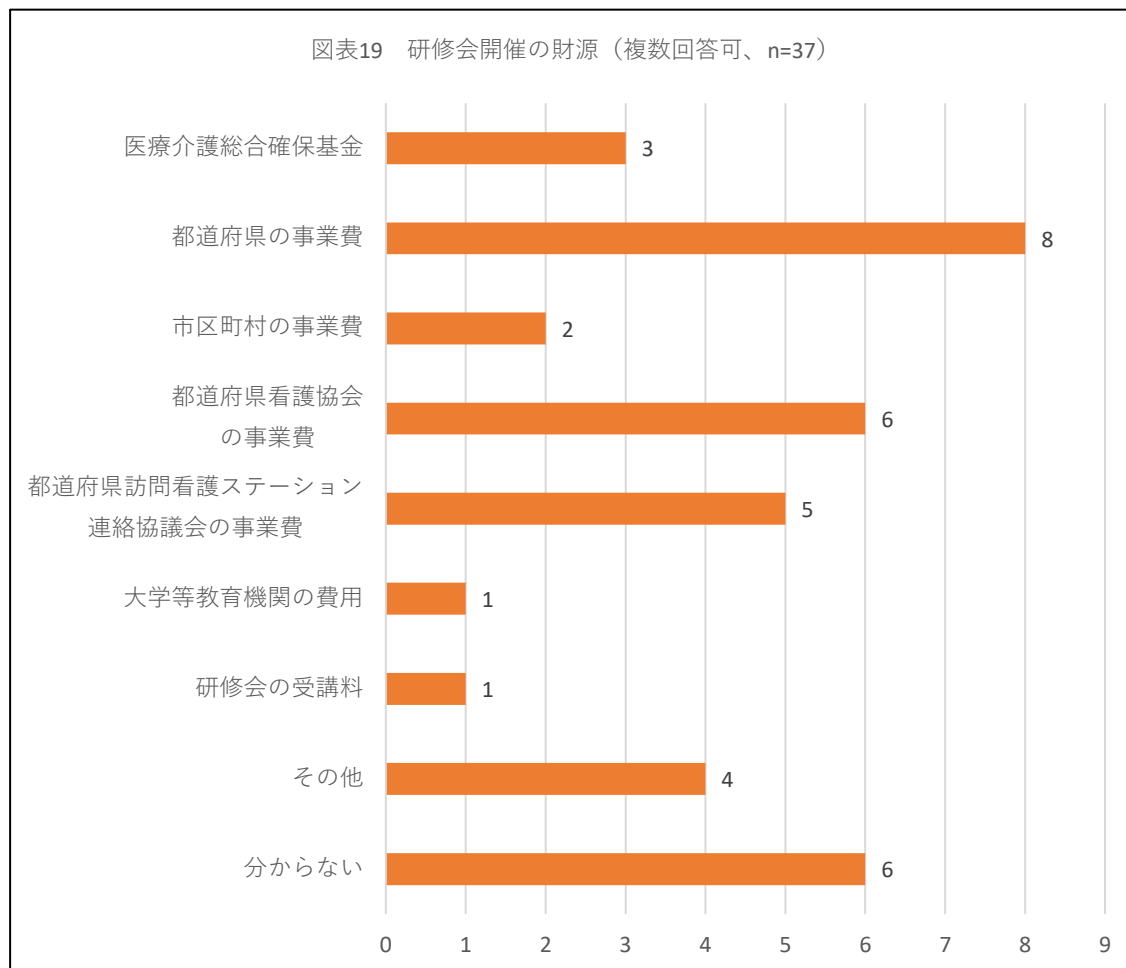
「1～20 名」が最も多く 12 件(32.4%)、「21～40 名」11 件(29.7%)、「41～60 名」が 3 件(8.1%)
「61～80 名」が 4 件 (10.8%)、「81 名～100 名」が 3 件 (8.1%) であった。



⑪研修会開催の財源（複数回答可）

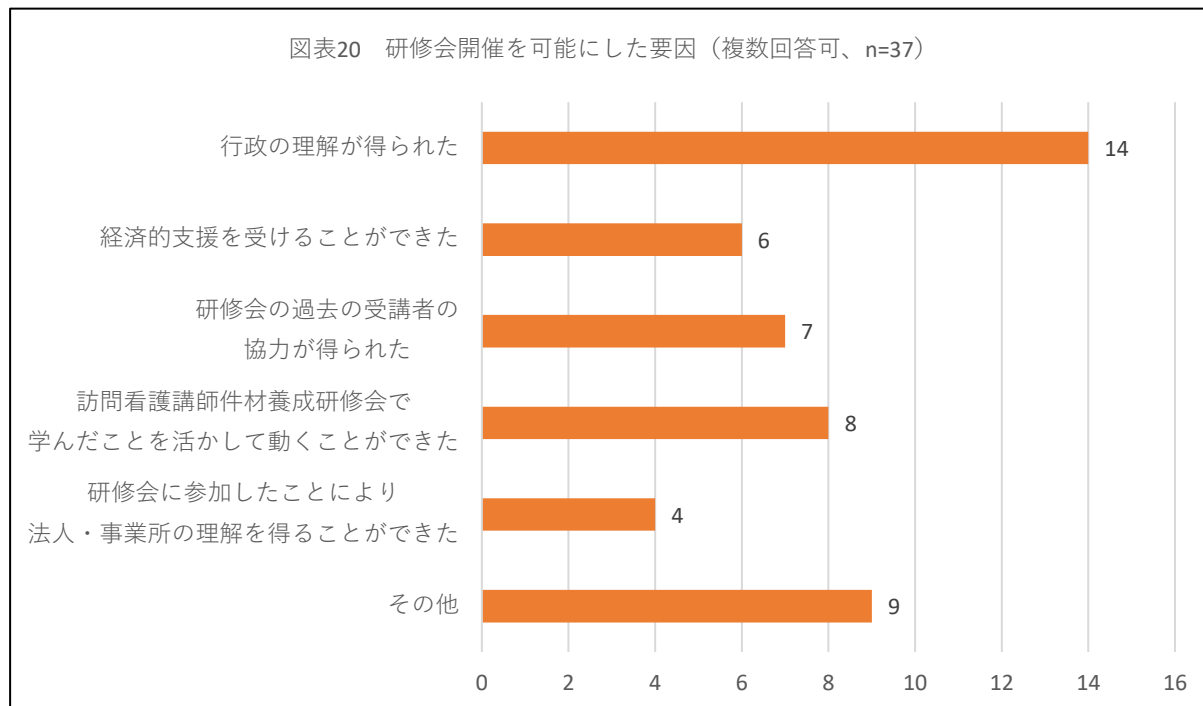
「都道府県の事業費」8件(21.6%)が最も多く、次いで「都道府県看護協会の事業費」が6件(16.2%)「都道府県訪問看護ステーション連絡協議会の事業費」が5件(13.5%)、「医療介護総合確保基金」3件(8.1%)「市区町村の事業費」が2件(5.4%)、「大学等教育機関の費用」「研修会の受講料」がそれぞれ1件(2.7%)であった。

「その他」は4件(10.8%)で、「東京都訪問看護教育ステーション委託費」等であった。また、「分からない」と回答したものが6件(16.2%)あった。



⑫研修会の開催を可能にした要因（複数回答可）

「行政の理解が得られた」14件(37.8%)と最も多く、次いで「訪問看護講師人材養成研修会で学んだことを活かして動くことができた」が8件(21.6%)、「本研修の過去の受講者の協力が得られた」7件(18.9%)、「経済的支援を受けることができた」6件(16.2%)、「訪問看護人材養成研修会に参加したことにより、所属法人・事業所等の理解を得ることができた」4件(10.8%)の順であった。「その他」が9件(24.3%)あった。



研修会の開催を可能にした各要因の内容（自由記載、一部抜粋）

■行政・関係機関等の理解が得られた
・ 県の委託事業として実施
・ 補助金
・ 保健所の訪問看護ステーション担当者の理解、協力を得た。テーマ・コロナ感染症対策のためアドバイザー的役割も担っていただいた。
・ ナースセンター事業の中のひとつでハローワークからも事業に参画しているため研修の必要性を感じてのこと。
・ 行政の理解の下、看護協会や連絡協議会の協力で継続した開催が可能となっている。
■経済的支援を受けることができた
・ 補助金
・ コロナ情勢の影響によりリモート通信機器活用を企画、リモート形式の構築費用が許可されたこと
■本研修の過去の受講者が協力した
・ ファシリテーターとして依頼し協力が得られた
・ 28年度の受講者と交流し協力を得られた
■訪問看護講師人材養成研修会で学んだことを活かして動くことができた
・ 講演に研修会で学んだ内容を活用できた
・ 学んだ事から資料作成ができた

・受講者がファシリテーターとして研修が企画された。
・学んだことを伝達できた
・講師の打診があった時に、資料として使えるものがあったのでお引き受けした。
■訪問看護人材養成研修会に参加したことにより、所属法人・事業所等の理解を得ることができた
・研修会に参加したため、きちんと講師をしなければいけないことをスタッフへ伝達し、理解を得られた
・所属法人の報告会と研修会を兼ねて企画する事ができた。
■その他
・本研修と一緒に参加した仲間を協力者に加えて実施した。コロナ禍の影響もあり、県・協議会などの開催ができなくなったため、有志での開催に踏み切った
・非常勤講師の依頼があったため。
・県看護協会からの依頼
・学校からの理解が得られた

⑬研修会の企画・開催においての工夫（自由記載、一部抜粋）

新型コロナウイルス感染症対策関連の工夫
・ 感染対策のため ZOOM を利用した
・ w e b 開催のため、別日に接続確認の日を複数設けて対応した。また、ゲストスピーカーの話を引き出すために全員での質問を実施しているが、慣れない方も多いため、受講生が聴きたい内容を企画者が集約してゲストとの対談形式にした回もあった。
・ COVID-19 感染拡大によって、集合研修ができず、ZOOM 研修の準備が大変であった
・ IT 化が進む中 通信機器利用会議が必然となっている。まずはリモート形式を試みて地域の IT 化の促進を図った。
・ 通信機器の準備が未整備なため他業者に協力を得た。
それ以外の工夫
・ 訪問看護とどのように連携していくことが必要なのか、実践者として事例を交えながら参加型の講義を行った
・ 訪問看護についてのイメージが捉えやすいように文字だけでなく図や動画を取り入れた
・ KJ 法の準備（ポストイットや色ペン、紙、ホワイトボード等）
・ 人材養成研修で学んだロールプレイを行い「訪問看護の魅力を伝える」リーフレットを各グループ毎に作成、発表した
・ 軽食を出し、食べながらの楽しい研修にした。
・ 一般の方が参加しやすいテーマ、専門職も聞きたい講師を選定した。
・ 対象が 1 年生だったので、わかりやすい言葉と写真を選び、地域医療に興味が出るような内容にした。
・ 参加しやすい日程で計画。e ラーニング 進捗のチェック（取り組みの遅い人にメールで励まし）
・ タイムリーなテーマを協議し、知識を共有し安心した訪問看護活動ができるよう、一助となるよう研修会を企画した。
・ 医科との連携を重要視し、多くの医師の協力を呼びかけた

⑭研修会の企画・開催しての課題（自由記載、一部抜粋）

感染症対策・Web 関連
・ Web での開催のため、受講者の反応が見えづらく、講師側だけでなく受ける側も慣れが必要と感じた。さらにグループワークがどの程度充実できたのかがわかりづかった事が課題に感じた
・ コロナ禍での開催で、人数の制限、フェースシールド着用などの感染予防対策について等
・ Web の接続に慣れていない方が多いため、環境調整が必要であった。
・ コロナ禍での集合研修でした。ソーシャルディスタンスを保ち 300 人入る会場で行いましたが今後はオンラインも検討。
・ 今年度はコロナウイルス感染症の関係で、グループワークが実施できず受講者の満足度が例年よりやや低めであった。今年度は訪問看護ステーション実習も中止した。
・ 具体的な感染対策の質疑時間が不足した
・ 感染症対策
・ リモートでの交流会はつながりが不便、臨場感希薄となる。
その他
・ 事例提供者、勉強会の講師をして下さる人を探すのに苦労し、ストレスが大きい。
・ シンポジウムの発表内容に時間がかかり会場からの意見や質問の時間が十分取れなかった。
・ 訪問看護に興味を持ってくれた学生もいたため、その後も関わりを継続できるような研修会や座談会を開催する必要性があると考える。
・ 自分が考えている地域と実際とは乖離がありそうな感じがしたので、地域をもっと理解することが必要
・ 対象が看護師志望だけではなくリハビリや福祉志望の方もおられたので、内容の範囲を広げた方がよかった。
・ 連続の研修会となると徐々に参加者が減ってくることが課題。それは新人が 2 か月目ぐらいから一スタッフとしての役割が課せられ、研修に出る余力がなくなってしまうことも要因と考えている
・ 学生が興味を持てるような内容にするため、教員との打ち合わせの機会が持てればよかった。
・ 研修会を終えてのアンケートがあったが、結果は簡単な口頭説明だけで終わってしまったため、講演に対しての評価が実際わからず、次に活かすことができない

(令和2年度在宅医療関連講師人材養成事業 訪問看護分野)

「令和元年度訪問看護講師人材養成研修会」

受講後活動についてのアンケート ご協力をお願い

令和元年度受講者用

～看護師～

日頃より、訪問看護の推進につきまして格別のご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

過日は、標記研修会にご参加頂きありがとうございました。

本研修会は、地域における訪問看護の講師人材の育成支援を趣旨として厚生労働省医政局より委託を受け平成28年度より行っております。研修を修了されました受講者を対象に研修プログラムの評価として、受講後の地域での活動に関する調査を実施いたします。ご多用中大変恐縮ですが、全ての受講者にご回答をいただきたく存じます。

別紙調査票にご回答のうえ、当協会担当者宛にメールに添付にてご返信ください。

本調査でご回答いただいた情報についてはとりまとめて、厚生労働省の会議等に提示させていただく他、都道府県、都道府県看護協会や都道府県訪問看護ステーション連絡協議会が受講者の皆様を活用するにあたり参考とできるよう公表いたしますので、ご了承くださいますようお願いいたします。とりまとめ及び公表に際しては、取り扱いに十分注意し個人が特定されないよう統計的に処理するとともに、上記目的以外に使用することは一切ございません。

何卒ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

◇ 締め切り：令和2年12月4日（金） ◇

令和2年11月10日
一般社団法人全国訪問看護事業協会

ご回答方法

- ・□を1クリックすると、☒選択マークに変わります。該当する□をクリックして、ご回答ください。
- ・複数回答いただける設問には、「複数回答可」と記載しています。

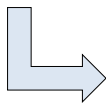
I. 基本情報についてお伺いいたします。

1) 都道府県名	
2) ご所在の二次医療圏名	
3) ご所属	
4) お名前	
5) 「訪問看護講師人材養成研修会」受講前の講師の経験の有無	☐ 有り ・ ☐ 無し
6) 推薦元(都道府県、訪問看護ステーション連絡協議会、看護協会等)への研修会受講報告はどのように行いましたか(複数選択可)	☐ 定例会議等で報告 ☐ 伝達研修会の開催 ☐ 報告書による報告 ☐ その他() ☐ <u>報告していない</u>  <u>報告していない理由:</u>

II. 「訪問看護講師人材養成研修会」受講後の地域での活躍について

1. 訪問看護人材の確保や訪問看護の推進・普及に関する研修会等の開催についてお伺いします。

- 1) 研修受講後、訪問看護人材確保や訪問看護の推進・普及に関する研修会等(技術研修・講演会など)を企画・開催したり、講師として活動しましたか。

☐ <u>開催した・活動した</u>	☐ <u>計画した</u>	☐ <u>開催しなかった・活動しなかった</u>
		

3) へお進みください

- 2) 「開催した・活動した」方は、「上段」研修会等を開催した回数・講師等で活動した回数、「計画した」方は、「下段」計画予定の回数、講師予定の回数をそれぞれご記載ください。

		開催(企画・運営)	講師
開催した・活動した方	令和元～2年度に実施	回	回
計画した方	令和2年度以降の計画	回	回

⇒回答後、4) へお進みください

- 3) 訪問看護人材の確保や訪問看護の質向上に関する研修会等の企画・開催等をしなかった方は、その理由をお答えください（自由記載）。

（例：所属法人・事業所等の理解が得られない、企画・運営等に必要な経費が確保できない、
地域に協力者がいない 等）

- 4) 今後、継続的に地域で研修会等を企画・開催していくうえで、どのようなことが課題と感じていますか（自由記載）。

（例：所属法人・事業所等の理解が得られない、企画・運営等に必要な経費が確保できない、
地域に協力者がいない 等）

5) 研修会等の実施計画予定について伺います。

(1) 今後の研修会等について、具体的に実施計画を立案しましたか（1つ選択）	☐ 1. 立案した ⇒ （2）以降へお進み下さい ☐ 2. 立案に向け準備中である⇒ （2）以降へお進み下さい ☐ 3. 立案予定はない ⇒ 6）以降へお進み下さい
(2) どのような計画を立案しましたか、もしくは立案中ですか （複数回答可）	☐ 1. 訪問看護の周知・啓発の研修会・講演会 ☐ 2. 訪問看護事業所管理者を対象として研修 ☐ 3. スキルアップ研修（例：フィジカルアセスメント） ☐ 4. 訪問看護講師人材養成研修会伝達研修会 ☐ 5. 訪問看護師として従事するための基礎研修 ☐ 6. 看取り・終末期ケア・ACP 等に関する研修会・講演会 ☐ 7. その他（ ）
(3) 具体的な内容を教えてください。（自由記載）	
(4) 計画の進捗状況についてご記載ください （自由記載）	（例：予算獲得のための計画書を提出した、会場・講師・シンポジスト等を手配した）

- 6) 平成28年度、平成29年度、平成30年度の受講者とは、地域の訪問看護に係る活動を協力して行っていますか。

平成28年度受講者	☐ 協力している	具体的な内容
	☐ 協力していない	その理由
平成29年度受講者	☐ 協力している	具体的な内容
	☐ 協力していない	その理由
平成30年度受講者	☐ 協力している	具体的な内容
	☐ 協力していない	その理由

7) 都道府県の地域医療計画策定検討委員会等に参画していますか。

☐ 参画している

☐ 参画していない



「参画している」方は、その協力内容について詳細をご記載ください。

(例：地域医療計画策定検討委員会に委員として参画している)

8) 市区町村の在宅医療・介護連携推進事業に協力をしていますか。

☐ 協力している

☐ 今後協力予定である

☐ 協力の予定はない



「協力している」方は、その協力内容について詳細をご記載ください。

(例：在宅医療・介護連携推進委員会に委員として参加している)

- 9) 訪問看護講師人材養成研修会で学んだことが、受講後の活動に役立ちましたか。もしくは、今後活動するうえで役立つと思いますか。5段階評価で該当する数字を選択してください。また、その理由を具体的にご記載ください。

とても役に立った |—————| 役に立たなかった
5 4 3 2 1

評価 【アイテムを選択してください】をクリックすると、番号を選択できます

番号【 アイテムを選択してください。 】

理由：

- 10) 地域の研修会等を企画・開催等をしていくために、どのような支援が必要ですか（自由記載）。

（例：研修会の企画・運営等の相談先、物理的・経済的な支援 等）

受講者に研修会等を企画・開催した方、講師等で活動した方は、

主な研修会等3つについて次ページからの

【研修会等の詳細】にご記載ください。

(1) 「研修等を企画・開催した」「講師として活動した」と回答した方に、開催した研修会等の詳細についてお伺いします。

企画・開催した、もしくは講師等を務めた主な研修会についてご回答ください。
ご回答の中から、好事例をホームページ等で紹介させて頂きたいと考えております。

ご回答方法

- ・設問①は、【アイテムを選択してください】を1度クリックすると項目が出てきます。1つ選択してご回答ください
- ・□を1度クリックすると、☒マークに変わります。該当する□をクリックして、ご回答ください。

研修会等の詳細①

① 参画した研修会等	アイテムを選択してください。
② 研修会等のタイトル	
③ 具体的な内容についてご記入ください（自由記載）	
④ 開催エリア	都道府県名： （以下、いずれか 1 つを選択） ☐ 所在する二次医療圏での開催 ☐ 所在する二次医療圏以外での開催
⑤ 実施主体 （1 つ選択）	☐ 1. 都道府県行政 ☐ 2. 市区町村行政 ☐ 3. 都道府県看護協会 ☐ 4. 看護協会地区支部 ☐ 5. 都道府県訪問看護ステーション連絡協議会 ☐ 6. 訪問看護ステーション連絡協議会地区支部 ☐ 7. 行政と看護協会との共催 ☐ 8. 行政と訪問看護ステーション連絡協議会との共催 ☐ 9. 看護協会と訪問看護ステーション連絡協議会との共催 ☐ 10. 地域の訪問看護ステーション ☐ 11. 医師会 ☐ 12. その他（具体的に： ）
⑥ 実施主体はどのような役割を担いましたか （複数回答可）	☐ 企画 ☐ 会場や講師手配、物品準備等の運営 ☐ その他（具体的に： ）

⑦ 開催にあたり、あなたはどのような役割を担いましたか（複数回答可）	☐ 企画・運営に関わった ☐ 講師、シンポジスト等として関わった ☐ その他（具体的に： _____）	
⑧ 開催にあたり謝金や謝礼はありましたか。 () 内の役割にもチェックをつけてください。	☐ 謝金または謝礼を受け取った（ ☐ 企画運営 ☐ 講師 ☐ シンポジスト ☐ その他） （ ☐ 1時間あたり1万円未満 ☐ 1時間あたり1万円以上2万円未満 ☐ 1時間あたり2万円以上3万円未満 ☐ 1時間あたり3万円以上） ☐ 謝品のみを受け取った（ ☐ 企画運営 ☐ 講師 ☐ シンポジスト ☐ その他） ☐ 業務内として扱われた（ ☐ 企画運営 ☐ 講師 ☐ シンポジスト ☐ その他） ☐ 無償だった（ ☐ 企画運営 ☐ 講師 ☐ シンポジスト ☐ その他） ☐ その他（ _____）	
⑨ 対象者 （複数回答可）	☐ 訪問看護師等（ ☐ 管理者 ☐ スタッフ職員） ☐ 病院の看護職員（ ☐ 看護部長・師長・主任 ☐ スタッフ職員） ☐ 看護職以外の専門職（職種： _____） ☐ 看護学生 ☐ 看護師養成機関教職員 ☐ 利用者・家族 ☐ 地域住民・一般の人 ☐ その他（ _____）	
⑩ 参加者数 （1つ選択）	☐ 1～20名 ☐ 21～40名 ☐ 41～60名 ☐ 61～80名 ☐ 81～100名 ☐ 101名～150名 ☐ 151名以上	
⑪ 研修会等開催の財源（複数回答可）	☐ 1. 医療介護総合確保基金 ☐ 2. 都道府県の事業費（事業名 _____） ☐ 3. 市区町村の事業費（事業名 _____） ☐ 4. 都道府県看護協会の事業費 ☐ 5. 都道府県訪問看護ステーション連絡協議会の事業費 ☐ 6. 大学等教育機関の費用 ☐ 7. 研修会の受講料 ☐ 8. その他（具体に： _____） ☐ 9. 分からない	
⑫ 研修会等の開催を可能にした要因について （複数回答可）	要 因	具体的な内容（自由記載）
	☐ 行政の理解が得られた	
	☐ 経済的支援を受けることができた	
	☐ 研修会等の開催に	

	あたり、過去の受講者等の協力を得られた	
	☐ 訪問看護講師人材養成研修会で学んだことで能動的（中心的）に動くことができた	
	☐ 訪問看護人材養成研修会に参加したことにより、所属法人・事業所等の理解を得ることができた	
	☐ その他	
⑬ 研修会等の企画・開催において、どのような工夫をしましたか。	工夫した点（自由記載）	
⑭ 研修会等の企画・開催して、どのような課題がありましたか。	課題があった点（自由記載）	

研修会等の詳細②

⑮ 参画した研修会等	アイテムを選択してください。
⑯ 研修会等のタイトル	
⑰ 具体的な内容についてご記入ください（自由記載）	
⑱ 開催エリア	都道府県名： （以下、いずれか1つを選択） ☐ 所在する二次医療圏での開催 ☐ 所在する二次医療圏以外での開催
⑲ 実施主体 （1つ選択）	☐ 1. 都道府県行政 ☐ 2. 市区町村行政 ☐ 3. 都道府県看護協会

可能にした要因について (複数回答可)	☐ 行政の理解が得られた	
	☐ 経済的支援を受けることができた	
	☐ 研修会等の開催にあたり、過去の受講者等の協力を得られた	
	☐ 訪問看護講師人材養成研修会で学んだことで能動的（中心的）に動くことができた	
	☐ 訪問看護人材養成研修会に参加したことにより、所属法人・事業所等の理解を得ることができた	
	☐ その他	
27 研修会等の企画・開催において、どのような工夫をしましたか。	工夫した点（自由記載）	
28 研修会等の企画・開催して、どのような課題がありましたか。	課題があった点（自由記載）	

研修会等の詳細③

29 参画した研修会等	アイテムを選択してください。
30 研修会等のタイトル	
31 具体的な内容についてご記入ください	

い（自由記載）	
32 開催エリア	都道府県名： （以下、いずれか 1 つを選択） ☐ 所在する二次医療圏での開催 ☐ 所在する二次医療圏以外での開催
33 実施主体 （1 つ選択）	☐ 1. 都道府県行政 ☐ 2. 市区町村行政 ☐ 3. 都道府県看護協会 ☐ 4. 看護協会地区支部 ☐ 5. 都道府県訪問看護ステーション連絡協議会 ☐ 6. 訪問看護ステーション連絡協議会地区支部 ☐ 7. 行政と看護協会との共催 ☐ 8. 行政と訪問看護ステーション連絡協議会との共催 ☐ 9. 看護協会と訪問看護ステーション連絡協議会との共催 ☐ 10. 地域の訪問看護ステーション ☐ 11. 医師会 ☐ 12. その他（具体的に： ）
34 実施主体はどのような役割を担いましたか （複数回答可）	☐ 企画 ☐ 会場や講師手配、物品準備等の運営 ☐ その他（具体的に： ）
35 開催にあたり、あなたはどのような役割を担いましたか（複数回答可）	☐ 企画・運営に関わった ☐ 講師、シンポジスト等として関わった ☐ その他（具体的に： ）
36 （講師、シンポジスト等として関わった方のみお答えください）謝金や謝礼はありましたか。	☐ 謝金もしくは謝礼として受け取った （ ☐ 1 時間あたり 2 万円以下 ☐ 1 時間あたり 2 万円以上） ☐ 謝品を受け取った ） ☐ 業務内として扱われた ☐ 何も受け取らなかった ☐ その他 （ ）
37 対象者 （複数回答可）	☐ 訪問看護師等 （ ☐ 管理者 ☐ スタッフ職員） ☐ 病院の看護職員 （ ☐ 看護部長・師長・主任 ☐ スタッフ職員） ☐ 看護職以外の専門職（職種： ） ☐ 看護学生 ☐ 看護師養成機関教職員 ☐ 利用者・家族 ☐ 地域住民・一般の人 ☐ その他 （ ）
38 参加者数 （1 つ選択）	☐ 1～20 名 ☐ 21～40 名 ☐ 41～60 名 ☐ 61～80 名 ☐ 81～100 名 ☐ 101 名～150 名 ☐ 151 名以上
39 研修会等開催の財	☐ 1. 医療介護総合確保基金

源（複数回答可）	☐ 2. 都道府県の事業費（事業名 ） ☐ 3. 市区町村の事業費（事業名 ） ☐ 4. 都道府県看護協会の事業費 ☐ 5. 都道府県訪問看護ステーション連絡協議会の事業費 ☐ 6. 大学等教育機関の費用 ☐ 7. 研修会の受講料 ☐ 8. その他（具体に： ） ☐ 9. 分からない	
40 研修会等の開催を 可能にした要因に ついて （複数回答可）	要 因	具体的な内容（自由記載）
	☐ 行政の理解が得られた	
	☐ 経済的支援を受けることができた	
	☐ 研修会等の開催にあたり、過去の受講者等の協力を得られた	
	☐ 訪問看護講師人材養成研修会で学んだことで能動的（中心的）に動くことができた	
	☐ 訪問看護人材養成研修会に参加したことにより、所属法人・事業所等の理解を得ることができた	
	☐ その他	
41 研修会等の企画・開催において、どのような工夫をしましたか。	工夫した点（自由記載）	
42 研修会等の企画・開催して、どのような課題がありましたか。	課題があった点（自由記載）	

☆ 質問は以上です。ご協力いただきまして、誠にありがとうございました ☆

12月4日（金）までにメールにてご返送ください。